

(案)

# ペントキサゾン 農薬使用者安全評価書

2025年3月6日

農業資材審議会農薬分科会

農薬使用者安全評価部会

## 目 次

<経緯> .....	2
<農薬使用者安全評価部会委員名簿> (第19回) .....	2
I. 評価対象農薬の概要 .....	3
1. 有効成分の概要 .....	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状 .....	4
3. 申請に係る情報 .....	5
4. 作用機作 .....	5
5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法 .....	5
II. 安全性に係る試験の概要 .....	6
1. 動物代謝 .....	6
2. 毒性試験の結果概要 .....	11
3. 公表文献における研究結果 (資料 32) .....	17
III. 農薬使用者暴露許容量 (AOEL) .....	19
IV. 急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL) .....	22
V. 暴露量の推計 .....	23
1. 経皮吸収試験 .....	23
2. 圃場における農薬使用者暴露 .....	23
3. 暴露量の推計 .....	23
VI. リスク評価結果 .....	23
評価資料 .....	24
別紙 1 代謝物記号 .....	26
別紙 2 用語及び略語 .....	29

<経緯>

令和5年(2023年)9月28日 農業資材審議会への諮問(再評価)  
令和7年(2025年)3月6日 農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全  
評価部会(第19回)

<農薬使用者安全評価部会委員名簿>(第19回)

(委員)

櫻井 裕之

美谷島 克宏

(臨時委員)

上島 通浩

(専門委員)

相崎 健一

石井 雄二

小坂 忠司

成田 伊都美

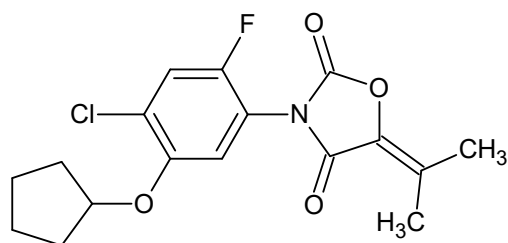
# ペントキサゾン

## I. 評価対象農薬の概要

### 1. 有効成分の概要

- 1.1 申請者 科研製薬株式会社
- 1.2 登録名 ペントキサゾン  
3-(4-クロロ-5-シクロペンチルオキシ-2-フルオロフェニル)-5-イソプロピリデン-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン
- 1.3 一般名 pentoxazone (ISO)
- 1.4 化学名  
IUPAC 名 : 3-[4-chloro-5-(cyclopentyloxy)-2-fluorophenyl]-5-(propan-2-ylidene)-1,3-oxazolidine-2,4-dione  
CAS 名 : 3-[4-chloro-5-(cyclopentyloxy)-2-fluorophenyl]-5-(1-methylethylidene)-2,4-oxazolidinedione  
(CAS No. 110956-75-7)
- 1.5 コード番号 KPP-314
- 1.6 分子式、構造式、分子量  
分子式  $C_{17}H_{17}ClFNO_4$

構造式



分子量 353.78

## 2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目	純度 (%)	試験方法	試験結果		
色調・形状	99.9	目視	白色・固体(粉末)		
臭気	99.9	官能法	無臭		
融点	99.9	OECD 102	104.4 °C		
沸点	99.9	OECD 103	測定不能 (230 °C以上で分解)		
密度	99.9	OECD109	1.418 g/cm <sup>3</sup> (25 °C)		
蒸気圧	99.9	OECD 104	<1.11 × 10 <sup>-5</sup> Pa (25 °C)		
熱安定性	97.2	DSC法	220 °C以上で分解		
溶解度	水	99.9	OECD 105	0.216 mg/L (25 °C)	
	有機溶媒	ヘキサン	99.9	OECD 105	5.10 g/L (25 °C)
		ジクロロメタン			>100 g/L (25 °C)
		アセトン			>100 g/L (25 °C)
		メタノール			24.8 g/L (25 °C)
		酢酸エチル			>100 g/L (25 °C)
		アセトニトリル			>100 g/L (25 °C)
解離定数 (pK <sub>a</sub> )	99.9	OECD 112	酸性~中性域で解離しない		
1-オクタノール/水分配係数 (log P <sub>ow</sub> )	99.9	OECD 107	4.66 (25°C)		
加水分解性	>98	OECD 111	半減期 35.5 日 (25 °C、pH 4.0) 半減期 22.3 日 (25 °C、pH 5.0) 半減期 4.75 日 (25 °C、pH 7.0) 半減期 1.91 時間 (25 °C、pH 9.0)		
水中光分解性	>98	59農蚕第4200号	半減期16.2日(pH 5.0、25 °C、142 W/m <sup>2</sup> 、290~800 nm)		
紫外吸収 (UV) スペクトル	99.9	極大吸収波長 (nm)		吸光度	モル吸光係数 (L mol <sup>-1</sup> cm <sup>-1</sup> )
		247		0.528	23000
		289		0.155	6740
試験項目		試験方法	試験結果		
土壌吸着係数		OECD 106	算出不可		
土壌残留性		59農蚕第4200号	粒剤(1回散布)、水田土壌(2種類)：半減期 5~23.3日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値)		

試験項目	純度 (%)	試験方法	試験結果
			粒剤(2回散布)、水田土壌(2種類)：半減期 10~40.2日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値)

### 3. 申請に係る情報

令和4年9月20日～9月29日に、再評価を受けるべき者から提出された農薬取締法（昭和23年法律第82号）第8条第3項に基づく試験成績等を受理した。

ペントキサゾン、令和7年3月現在、海外では韓国等で登録されている。

### 4. 作用機作

ペントキサゾンは非ホルモン接触型・光要求性のオキサゾリジン環を有するオキサゾリジンジオン系除草剤であり、その殺草作用は細胞構成成分の光酸化的破壊に基づくものと考えられている。

(HRAC 分類：14<sup>\*</sup>)

※参照：<https://www.hracglobal.com/>

### 5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法

評価対象となるペントキサゾンを含有する農薬91製剤について、適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法を別添1に示す。

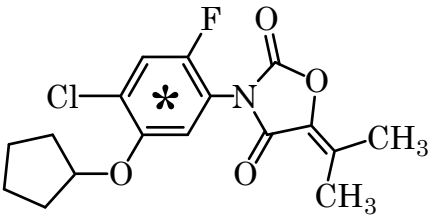
## II. 安全性に係る試験の概要

ペントキサゾンとは、令和7年1月22日に内閣府食品安全委員会において、食品健康影響評価（資料1）がなされている。食品安全委員会では、評価に用いた試験成績において、過去のテストガイドラインに基づき実施されている試験も確認されたが、ペントキサゾンの代謝・毒性プロファイルを適切に把握できることから、評価は可能と判断した。

### 1. 動物代謝

ペントキサゾンのベンゼン環の炭素を<sup>14</sup>Cで標識したもの（以下「[ben-<sup>14</sup>C]ペントキサゾン」という。）（表1）を用いた動物代謝試験について、動物体内への吸収率（経口吸収率）、分布及び代謝の概要をまとめた。

表1 標識化合物

略称	[ben- <sup>14</sup> C]ペントキサゾン
構造式	
標識位置	ベンゼン環の炭素を標識

#### 1-1. 経口吸収率

##### ① 尿及び糞中排泄（単回経口投与-1）（資料2、GLP）

Fischer ラット（一群雌雄各3匹）に[ben-<sup>14</sup>C]ペントキサゾンを2 mg/kg 体重（以下「低用量」という。）又は500 mg/kg 体重（以下「高用量」という。）で単回経口投与して、尿及び糞中排泄試験が実施された。

投与後72時間の尿及び糞中排泄率は、表2に示されている。

低用量投与群の雌で初期の排泄が雄に比べてやや遅かった。投与量にかかわらず主に糞中に排泄され、投与後72時間で90%TAR以上が排泄された。

表2 投与後72時間の尿及び糞中排泄率（%TAR）

投与量	2 mg/kg 体重		500 mg/kg 体重	
	雄	雌	雌	雄
尿*	15.9	19.5	5.3	5.8
糞	90.5	87.2	91.6	92.2

合計（総回収率）	106.4	106.7	96.9	98.0
----------	-------	-------	------	------

\*：ケージ洗浄液を含む  
表の値は3匹の平均値

### ② 尿及び糞中排泄（単回経口投与-2）（資料3、GLP）

Fischer ラット（一群雌雄各5匹）に[ben-<sup>14</sup>C]ペントキサゾンを用用量又は高用量で単回経口投与して、尿及び糞中排泄試験が実施された。

投与後168時間の尿及び糞中排泄率は、表3に示されている。

排泄は速やかで、主に糞中に排泄された。高用量投与群では低用量投与群よりも尿中排泄が少なく、吸収率の低下が示唆された。

表3 投与後168時間の尿及び糞中排泄率（%TAR）

投与量	2 mg/kg 体重		500 mg/kg 体重	
	雄	雌	雌	雄
尿*	13.6	16.1	4.7	4.5
糞	87.8	82.7	92.9	95.6
合計（総回収率）	101.4	98.8	97.6	100.1

\*：ケージ洗浄液を含む  
表の値は5匹の平均値

### ③ 尿及び糞中排泄（反復経口投与）（資料3、GLP）

Fischer ラット（一群雌雄各5匹）に非標識ペントキサゾンを低用量で1日1回14日間反復経口投与後に[ben-<sup>14</sup>C]ペントキサゾンを低用量で単回経口投与して、尿及び糞中排泄試験が実施された。

最終投与後168時間の尿及び糞中排泄率は、表4に示されている。

排泄は速やかで、主に糞中に排泄された。

表4 最終投与後168時間の尿及び糞中排泄率（%TAR）

投与量	2 mg/kg 体重	
	雄	雌
尿*	11.5	12.8
糞	94.0	84.8
合計（総回収率）	105.5	97.6

\*：ケージ洗浄液を含む  
表の値は5匹の平均値

#### ④ 胆汁中排泄(資料4、GLP)

胆管カニューレを挿入した Fischer ラット (一群雌雄各 4 匹) に[ben-<sup>14</sup>C]ペントキサゾン を低用量又は高用量で単回経口投与して、胆汁中排泄試験が実施された。

投与後 48 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率は表 5 に示されている。

投与放射能は、低用量投与群では胆汁中に 57.2%TAR~70.9%TAR が排泄され、主に胆汁を介して糞中に排泄されると考えられた。高用量投与群での胆汁中排泄率は 11.9%TAR~12.0%TAR、糞中排泄率は 78.2%TAR~81.1%TAR であり、主に未吸収分が糞中へ排泄されると考えられた。

胆汁、尿、ケージ洗浄液及びカーカス中の残留放射能の合計から、投与後 48 時間の経口吸収率は低用量投与群で 79.5~80.8%、高用量投与群で 13.8~15.2% と算出された。

表 5 投与後 48 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率 (%TAR)

投与量	2 mg/kg 体重		500 mg/kg 体重	
	雄	雌	雌	雄
胆汁	70.9	57.2	11.9	12.0
尿	8.26	20.5	1.48	2.71
糞	14.9	15.5	81.1	78.2
消化管 (内容物を含む)	1.06	0.36	5.47	2.18
カーカス	1.48	1.17	0.32	0.35
ケージ洗浄液	0.16	0.60	0.05	0.12
合計 (総回収率)	97.76	95.33	100.32	95.56
経口吸収率*	80.80	79.47	13.75	15.18

\* : 経口吸収率 = 胆汁 + 尿 + ケージ洗浄液 + カーカス

表の値は 4 匹の平均値

## 1-2. 分布

### ① 単回経口投与-1 (資料2、GLP)

Fischer ラット (一群雌雄各 3 匹) に[ben-<sup>14</sup>C]ペントキサゾン を低用量又は高用量で単回経口投与して、体内分布試験が実施された。

投与 72 時間後では、投与量の大部分が排泄されたが、肝臓、腎臓及び赤血球に残留が認められた。

### ② 単回経口投与-2 (資料3、GLP)

Fischer ラット (一群雌雄各 5 匹) に[ben-<sup>14</sup>C]ペントキサゾン を低用量又は高用量で単回経口投与して、体内分布試験が実施された。

投与 168 時間後に最も高濃度に残留が認められたのは肝臓及び赤血球であった。雌では肝臓、赤血球のほかに腎臓で全血と同程度の残留が認められた。

そのほかの大部分の臓器及び組織では放射能はほとんど検出されなかった。

### ③ 反復経口投与（資料 3、GLP）

Fischer ラット（一群雌雄各 5 匹）に非標識ペントキサゾンを用いた体内分布試験[1-2.]及び排泄試験[1-1. ①～④]における尿、糞、血漿、肝臓及び赤血球を試料として、ペントキサゾンの代謝物同定・定量試験が実施された。

単回投与と比較し、臓器及び組織中残留濃度との差は認められなかった。

## 1-3. 代謝

### ① 代謝物同定・定量試験（資料 2、GLP）（資料 3、GLP）

[ben-<sup>14</sup>C]ペントキサゾンを用いた体内分布試験[1-2.]及び排泄試験[1-1. ①～④]における尿、糞、血漿、肝臓及び赤血球を試料として、ペントキサゾンの代謝物同定・定量試験が実施された。代謝物の記号と化学名の関係は別紙 1 に示す。

糞中の主要な成分は、全ての試験群で未変化のペントキサゾンで、高用量投与群では 70%TRR 以上を占めた。単回経口投与-2 では主要な代謝物は IX であった。また、代謝物 I、II、IV、V 及び VIII も検出された。

尿中の主要代謝物は、全ての試験群で代謝物 X の抱合体であった。また、代謝物 V 及び XI とそれらの抱合体、代謝物 IV 等も検出された。

血漿中では、未同定代謝物が主成分で、未変化のペントキサゾンは 2%TRR 未満であった。肝臓中の主要成分は、代謝物 II、III、IV、V 及び VII 並びに 3 種類の未同定代謝物であった。

赤血球では、55.5%TRR～76.6%TRR が抽出残渣中に残存した。投与後 72 時間の赤血球における放射能分布が分析された結果、62.6%TRR～70.3%TRR がヘモグロビン画分に分布しており、タンパク質と結合性のある中間代謝分解物の生成が示唆された。

[ben-<sup>14</sup>C]ペントキサゾンを用いた胆汁中排泄試験[1-1. ④]で得られた胆汁について HPLC 分析が実施された結果、多数の代謝物ピークが検出され、未変化のペントキサゾンは認められなかった。

ペントキサゾンのラットにおける主要代謝経路は、イソプロピリデン二重結合への水の付加（代謝物 I）、イソプロピリデンの酸化（代謝物 II、IV 及び VII）、オキサゾリジン環の加水分解と脱炭酸（代謝物 III）、シクロペンチル環の酸化（代謝物 IV）、脱シクロペンチル化（代謝物 V 及び VII）及びアニリドの加水分解（代謝物 X）であり、さらにグルタチオン抱合、硫酸抱合あるいはグルクロン酸抱合

を受け、多数の代謝産物を生じると考えられた。

## 2. 毒性試験の結果概要

資料1（食品安全委員会評価書）に示す各種毒性試験の結果の概要を表3に示す。

ペントキサゾンの急性毒性は経口、経皮、吸入のいずれの投与経路においても弱く（LD<sub>50</sub>（経口）：>2000 mg/kg 体重、LD<sub>50</sub>（経皮）：>2000 mg/kg 体重、LC<sub>50</sub>（吸入）：>5.59 mg/L）、皮膚感作性は軽度の皮膚感作性を有すると考えられた。

ペントキサゾン投与による影響は、主に肝臓（肝細胞肥大等）及び膀胱（粘膜上皮過形成等の増殖性病変）に認められた。繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

ラットを用いた2年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験において、雌雄及び慢性的膀胱粘膜上皮過形成の増加が、雌では更に膀胱移行上皮乳頭腫の増加が認められたが、発生機序は遺伝毒性によるものとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。

表3 各試験における無毒性量等

急性毒性			
試験	投与量 (mg/kg 体重)	LD <sub>50</sub> 又は LC <sub>50</sub>	観察された症状
急性経口毒性 ラット GLP(資料5)	雌雄：5000	LD <sub>50</sub> 雌：>5000 mg/kg 体重	症状及び死亡例なし
急性経口毒性 ラット GLP(資料6)	雌雄：2000	LD <sub>50</sub> 雌：>2000 mg/kg 体重	症状及び死亡例なし
急性経口毒性 ラット GLP(資料7)	雌雄：2000	LD <sub>50</sub> 雌：>2000 mg/kg 体重	症状及び死亡例なし
急性経口毒性 マウス GLP(資料8)	雌雄：5000	LD <sub>50</sub> 雌：>5000 mg/kg 体重	症状及び死亡例なし
急性経皮毒性 ラット GLP(資料9)	雌雄：2000	LD <sub>50</sub> 雌雄：>2000 mg/kg 体重	症状及び死亡例なし
急性吸入毒性 (ダスト) ラット GLP(資料10)	雌雄：5.1 (全身暴露)	4時間 LC <sub>50</sub> 雌雄：>5.1 mg/L	症状及び死亡例なし
試験	結果		
皮膚感作性 (Maximization 法) モルモット GLP(資料11)	軽度の皮膚感作性を有すると考えられた。		

短期毒性				
試験	投与量 <sup>1</sup> (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
90 日間 反復経口 投与毒性 ラット GLP(資料 12)	雌雄：0、80、400、2000、 10000 ppm  雄：0、4.65、23.6、117、606 雌：0、5.24、26.1、129、664	雄：117 雌：26.1	雄：606 雌：129	10000 ppm 雄：体重増加抑制(投与 4 週以 降)、Ht 及び MCV 減少、肝絶 対及び比重量 増加、胆管増 生、小葉周辺性肝細胞肥大 雌：体重増加抑制(投与 11 週)、肝 絶対重量増加、副腎比重量増 加、膀胱粘膜上皮過形成 2000 ppm 雌：肝比重量増加、胆管増生
90 日間 反復経口 投与毒性 マウス GLP(資料 13)	雌雄：0、80、400、2000、 10000 ppm  雄：0、9.79、48.0、251、1240 雌：0、10.9、54.3、271、1430	雄：251 雌：54.3	雄：1240 雌：271	10000 ppm 雄：膀胱粘膜上皮好酸性小体沈 着、膀胱粘膜上皮過形成 雌：RBC 減少、AST 及び CPK 増 加、尿比重減少、肝比重量増 加、小葉中心性肝細胞肥大、 膀胱粘膜上皮過形成 2000 ppm 雌：膀胱粘膜上皮好酸性小体沈着 (PAS 反応陰性、アザン染色に て赤色)
90 日間 反復経口 投与毒性 イヌ GLP(資料 14)	雌雄：0、400、2000、10000 ppm  雄：0、12.3、58.8、312 雌：0、13.2、64.3、318	雄：58.8 雌：64.3	雄：312 雌：318	10000 ppm 雄：ALP 増加、肝絶対及び比重量 増加、肝細胞肥大(小葉周辺～ 中間帯) 雌：ALP 増加、肝細胞肥大(小葉周 辺～中間帯)
1 年間 反復経口 投与毒性 イヌ GLP(資料 15)	雌雄：0、200、1000、5000 ppm  雄：0、4.50、23.1、113 雌：0、4.76、25.2、121	雄：23.1 雌：25.2	雄：113 雌：121	5000 ppm 雄：ALP 及び T.Chol 増加、肝絶対 及び比重量増加、肝細胞肥大 (び漫性) 雌：ALP 増加、肝絶対及び比重量増 加、肝細胞肥大(び漫性)
遺伝毒性				
試験	試験系	試験濃度		結果
復帰突然変異 ( <i>in vitro</i> ) GLP(資料 16)	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、TA1537 株) <i>Escherichia coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> <sup>-</sup> 株)	156～5,000 □g/プレート(+/-S9) (プレート法)		陰性
復帰突然変異 ( <i>in vitro</i> ) GLP(資料 17)	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> <sup>-</sup> 株)	19.5～313 □g/プレート (-S9) 78.1～1,250 □g/プレート (+S9) (プレインキュベーション法)		陰性

<sup>1</sup> 混餌投与試験については、混餌濃度を ppm として併記した。投与量は平均検体摂取量として摂取量と試験動物の体重から以下のように算出された値。

$$\text{投与量 (mg/kg 体重/日)} = \text{混餌濃度 ppm} \times \text{1 日当たりの摂取量} \div \text{試験動物体重}$$

復帰突然変異 ( <i>in vitro</i> ) GLP(資料 18)	S. typhimurium (TA98、TA100、TA1535、TA1537 株) E. coli (WP2 <i>uvrA</i> <sup>-</sup> 株)	①4.88～5,000 □g/プレート (+/-S9) ②313～5,000 □g/プレート (+/-S9) (プレインキュベーション法)	陰性	
染色体異常 ( <i>in vitro</i> ) GLP(資料 19)	チャイニーズハムスター肺由来細胞 (CHL)	25～100 □g/mL (-S9) : 24 及び 48 時間処理) (+/-S9 : 6 時間処理)	陽性 <sup>2</sup>	
小核 ( <i>in vivo</i> ) GLP(資料 20、21)	ICR マウス(骨髄細胞) (一群雄 5～6 匹)	①1,250、2,500、5,000 mg/kg 体重(単回 腹腔内投与) ②1,250、2,500、5,000 mg/kg 体重(単回 経口投与)	陰性	
コメット試験及び小核試 験 ( <i>in vivo</i> ) GLP(資料 22)	Fischer ラット [膀胱(コメット試験)、骨髄細胞(小核試 験)] (一群雌 5 匹)	1,000、2,000 mg/kg 体重/日 [24 時間間隔で 2 回強制経口投与、最 終投与 3 時間後(膀胱)及び 24 時間後 (膀胱及び骨髄)に標本作製]	陰性	
コメット試験及び小核試 験 ( <i>in vivo</i> ) GLP(資料 23)	Fischer ラット [膀胱(コメット試験)、骨髄細胞(小核試 験)] (一群雌 5 匹)	2,000、5,000 ppm (平均検体摂取量は 149、361 mg/kg 体 重/日) <sup>3</sup> (4 週間混餌投与後に標本作製)	陰性	
長期毒性及び発がん性				
試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
2 年間 反復経口投 与毒性/ 発がん性 併合 ラット GLP(資料 24)	雌雄: 0、200、1000、5000 ppm 雄: 0、6.92、35.2、181 雌: 0、8.74、43.8、225	雄: 35.2 雌: 43.8	雄: 181 雌: 225	5000 ppm 雄: 体重増加抑制(投与 1 週以降)、TG 減少、尿量増加、尿比重減少、肝 絶対及び比重量増加、膀胱粘膜上 皮び慢性過形成、膀胱粘膜上皮限 局性過形成、胆管増生(病変の程 度増加)、前立腺炎 雌: 外陰部被毛の尿による汚れ及び湿 潤、体重増加抑制(投与 64 週以 降)、Ht・Hb 及び RBC 減少、MCHC 増加、TG 減少、尿量増加、尿比 重減少、肝絶対及び比重量増加、 膀胱粘膜上皮び慢性過形成、胆管 増生(発生頻度及び病変の程度増 加)  5,000 ppm 投与群の雌で膀胱の移行上 皮乳頭腫が発生し、検体投与による影 響と考えられた。

<sup>2</sup> 代謝活性化系存在下で陽性。染色体異常試験において、代謝活性化系存在下で陽性の結果が得られたが、*in vivo* の小核試験及びコメット試験を含めた他の試験では全て陰性であったことから、ペントキサゾンには生体において問題となる遺伝毒性はないものと考えられた。

<sup>3</sup> 試験終了時(投与開始 4 週間後)に、5,000 ppm 投与群の全例で膀胱に粘膜上皮過形成及び単核細胞浸潤が、2,000 ppm 投与群の 3 例で単核細胞浸潤が認められた。PCNA 標識率を指標とした細胞増殖活性は、統計学的に有意ではないものの、用量相関性に増加傾向が認められた。

18 か月間 発がん性 マウス GLP (資料 25)	雌雄：0、80、400、2000 ppm  雄：0、7.88、41.4、203 雌：0、7.59、37.1、191	雄：203 雌：191	雄：－ 雌：－	いずれの投与群でも、検体投与の影響は認められなかった。  発がん性は認められなかった。
生殖・発生毒性				
試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
2 世代 繁殖毒性 ラット GLP (資料 26)	雌雄：0、50、1000、10000 ppm  P 雄：0、3.57、71.2、716 P 雌：0、4.07、84.5、821 F <sub>1</sub> 雄：0、4.14、85.5、858 F <sub>1</sub> 雌：0、4.51、98.6、986	親動物及び児動物： P 雄：71.2 P 雌：84.5 F <sub>1</sub> 雄：85.5 F <sub>1</sub> 雌：98.6	親動物及び児動物： P 雄：716 P 雌：821 F <sub>1</sub> 雄：858 F <sub>1</sub> 雌：986	親動物 10000 ppm P 雄：10000ppm 以下、毒性所見なし P 雌：体重増加抑制(投与 6 週以降)、摂餌量減少(哺育 14～21 日)、肝絶対及び比重量増加 F <sub>1</sub> 雄：肝比重量増加、腎絶対及び比重量増加 F <sub>1</sub> 雌：肝絶対及び比重量増加  児動物 10000 ppm P 雌雄、F <sub>1</sub> 雌雄：生後 21 日低体重  繁殖能に対する影響は認められなかった。
発生毒性 ラット GLP (資料 27)	0、40、200、1000 (妊娠 6～15 日投与)	母動物：1000 胎 児：1000	母動物：－ 胎 児：－	いずれの投与群においても毒性影響は認められなかった。  催奇形性は認められなかった。
発生毒性 ウサギ GLP (資料 28)	0、100、300、1000 (妊娠 6～18 日投与)	母動物：100 胎 児：100	母動物：300 胎 児：－	母動物 1000 mg/kg 体重/日 肛門周囲の被毛汚染の増加(妊娠 9 日以降)、摂餌量減少(妊娠 8～10 日以降)、流産(妊娠 19 日以降)の出現頻度が対照群より有意に高い、死亡 2 例(妊娠 15 及び 25 日)、早産 1 例(妊娠 27 日) 300 mg/kg 体重/日 死亡 1 例(妊娠 26 日)、流産 2 例(妊娠 24 及び 25 日)、早産 1 例(妊娠 27 日)、死亡個体及び流産又は早産の認められた個体でガス又は内容物による大腸膨満

			胎児 300 mg/kg 体重/日以上 母動物毒性が強く評価を行う上で十分な数の生存胎児を得られなかったため、胎児の評価は 100 mg/kg 体重/日投与群で行った。 100 mg/kg 体重/日 検体投与の影響は認められなかった。  催奇形性は認められなかった。
その他（メカニズム等）			
試験	概要		
長期毒性/発がん性試験の最終と殺動物における膀胱粘膜上皮細胞の増殖活性の検索 ラット、マウス及びイヌ (資料 29)	イヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験（資料 21）、ラットを用いた 2 年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験（資料 22）及びマウスを用いた発がん性試験（資料 23）における、最終と殺動物の膀胱組織標本を試料として、細胞の増殖活性の指標となる増殖性細胞核抗原（PCNA）の免疫組織染色が実施された。ラットでは、5,000 ppm 投与群の雌雄において、膀胱粘膜上皮細胞の PCNA 標識率は、対照群に比べ有意に上昇した。その傾向は雄よりも雌において顕著であった。一方、マウスの 2,000 ppm 投与群及びイヌの 5,000 ppm 投与群では、平均標識率の上昇は認められなかった。これらの結果は、長期投与ではラットにのみ膀胱粘膜上皮の増殖性病変が観察されたことと一致し、同病変と粘膜上皮細胞の増殖活性亢進との関連が示唆された。		
膀胱粘膜上皮の初期変化の検索 ラット (資料 30)	Fischer ラット（一群雌雄各 20 匹）に、ペントキサゾン を 14 日間混餌投与（原体：0、1,000 及び 5,000 ppm）し、投与 1、3、7 及び 14 日に採取した膀胱を試料として 5-ブロモ-2'-デオキシウリジン（BrdU）染色を行い、細胞増殖性評価試験が実施された。 なお、一部の群については、評価可能な BrdU 染色標本が少なかったため、PCNA 染色標本によって細胞増殖性の評価が行われた。 膀胱の組織学的検査では、5,000 ppm 投与群の雌で、投与 7 及び 14 日に 2 例ずつ、軽度な粘膜上皮の単純性過形成が認められた。また、同群の雌において、投与 14 日に 1 例、粘膜下組織の単核細胞浸潤が認められた。したがって、本剤によって、膀胱粘膜上皮の過形成は短期間で誘発されることが示された。それ以外の群（対照群の雌雄、全投与群の雄、1,000 ppm 投与群雌）では、いずれの検査時期においても膀胱に組織学的変化は認められなかった。 BrdU（又は PCNA）標識率は、いずれの投与時期においても対照群と投与群の間で、統計学的に有意な差は認められなかった。しかし、5,000 ppm 投与群の雌では、投与 7 及び 14 日に BrdU 標識率の上昇傾向が認められ、同時期に、膀胱粘膜上皮過形成も認められた。 一方、5,000 ppm 投与群の雄及び 1,000 ppm 投与群の雌雄では、膀胱粘膜上皮において組織学的変化及び増殖活性の亢進は認められなかった。		
膀胱粘膜上皮細胞の増殖活性及び尿性状と変異原性の経時的変化 ラット (資料 31)	Fischer ラット（一群雌雄各 20 匹）に、ペントキサゾン を 8 週間混餌投与（原体：0 及び 5,000 ppm）し、投与 4 及び 8 週に採取した新鮮尿について、pH、尿中結晶物の観察、比重及び電解質濃度の測定が実施された。また、投与 2、3、4、6 及び 8 週に膀胱を採取し、病理組織学的検査及び BrdU 染色が実施された。 尿比重については、5,000 ppm 投与群の雄で、投与 8 週に比重の低下が認められたが、同群の雌では尿比重の低下が認められず、膀胱粘膜上皮の増殖性病変と、尿比重の変化との関連性は不明であった。尿中結晶物の出現頻度及び程度、pH 及び電解質濃度には、対照群と投与群で有意差は認められなかった。 膀胱の組織学的変化については、投与 2 週に、投与群の雌で粘膜上皮過形成及び粘膜下組織の単		

	<p>核細胞浸潤が認められた。雄においては、いずれの検査時期においても、変化は認められなかった。膀胱粘膜上皮の BrdU 染色を実施したところ、BrdU 標識率には個体ごとにばらつきが認められ、統計学的に有意な差は認められなかったものの、投与群の雌で標識率の上昇傾向が認められた。雄においては、標識率の変動に一定の傾向は認められなかった。</p> <p>採取したラットの尿を検体とし、細菌 (<i>S.typhimurium</i> TA98、TA100 及び TA1535 株) を用いて、代謝活性化系 (S9) 存在下及び非存在下で、復帰突然変異試験が実施された。代謝活性化系の有無にかかわらず、いずれの菌株においても、復帰突然変異誘発性は陰性であった。</p>
ラット膀胱粘膜上皮に及ぼす影響まとめ	<p>以上の試験 (資料 27~29) の結果から、本剤の投与によって認められた膀胱粘膜上皮の増殖性病変は、細胞の増殖活性の亢進と関連のあることが確認された。しかし、膀胱粘膜上皮の増殖性病変の要因といわれている、尿 pH 及び電解質の増加等尿性状の変化や尿の変異原性については、本試験の結果何ら異常は認められず、膀胱粘膜上皮の増殖性変化は、これらの要因により誘発された変化ではないと結論された。</p> <p>また、ラットを用いた 2 年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験 (資料 22) において、膀胱粘膜の過形成及び膀胱移行上皮乳頭腫を認めなかった 1,000 ppm 投与群では細胞増殖活性の亢進も観察されなかったこと、イヌを用いた 90 日間反復経口投与毒性試験及び 1 年間反復経口投与毒性試験並びにマウスを用いた発がん性試験では膀胱粘膜病変は認められず、イヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験及びマウスを用いた発がん性試験では細胞増殖活性の亢進も認められず、明らかに感受性はなかったこと等から、本病変には閾値が存在し、性差及び種差が存在することが示された。</p>

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、イヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験の 23.1 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.23 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量 (ADI) と設定した。

また、ペントキサゾンの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったことから、急性参照用量 (ARfD) は設定する必要がないと判断した。

### 3. 公表文献における研究結果（資料 32）

表 4 に示すデータベース [Web of Science (Core Collection) 及び J-STAGE] を用いて、それぞれ 2006～2021 年を検索対象期間として、有効成分名及びペントキサゾンを含む製剤名をキーワードとして公表文献を検索し、評価対象となる影響、評価対象の生物種等についてガイドライン<sup>4</sup>で定めるキーワードで絞り込みが行われた。

Web of Science (Core Collection) を用いた場合、全文に基づく適合性評価の対象となるヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当する公表文献は 0 報であった。

J-STAGE を用いた場合、全文に基づく適合性評価の対象となるヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当する公表文献は 0 報であった。

なお、ペントキサゾンは、欧米で農薬として登録されておらず、JMPR での評価も行われていないため、EFSA、USEPA、JMPR の評価書に引用されている公表文献は検索されなかった。

---

<sup>4</sup> 公表文献の収集、選択等のためのガイドライン（令和 3 年 9 月 22 日 農業資材審議会農薬分科会決定、令和 5 年 7 月 27 日一部改正）

表 4 ペントキサゾンに関する公表文献の検索結果

データベース名	Web of Science(Core Collection)、
検索対象期間	2006/1/1～2021/12/31
検索結果	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	7
ヒトに対する毒性の分野の論文数	6*
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	0
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	0
評価に用いた文献数	0
データベース名	J-STAGE
検索対象期間	2006/1/1～2021/12/31
検索結果	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	40
ヒトに対する毒性の分野の論文数	17*
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	0
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	0
評価に用いた文献数	0

\*他の評価分野との重複あり

### III. 農薬使用者暴露許容量 (AOEL)

急性毒性試験の結果において、経皮又は吸入経路特異的な毒性は見られなかったこと及び農薬としての使用方法から、ペントキサゾンの農薬使用者暴露許容量 (AOEL) の設定に当たっては、経皮又は吸入経路特異的な毒性を考慮する必要はないと判断した。よって経口投与による短期毒性試験及び生殖・発生毒性試験の結果に基づき AOEL を設定する (表 6)。

各試験で得られたペントキサゾンの無毒性量のうち最小値は、イヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験の ALP 増加、肝細胞肥大等に基づく無毒性量 23.1 mg/kg 体重/日であった。

なお、ラットを用いた 2 年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験において、5000 ppm 投与群 (雄: 181 mg/kg 体重/日、雌: 225 mg/kg 体重/日) の雌雄で慢性の膀胱粘膜上皮過形成の増加が、雌では更に膀胱移行上皮乳頭腫の増加が認められたが、発生機序は遺伝毒性によるものとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。AOEL の設定根拠試験であるイヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験の無毒性量 23.1 mg/kg 体重/日は、腫瘍の発生頻度の有意な増加が認められた投与量 (5000 ppm、雌: 225 mg/kg 体重/日) 及び増加が認められなかった投与量 (1000 ppm 以下、雌: 43.8 mg/kg 体重/日以下) より十分に小さいことから、発がん性に関しては、十分なマージンが確保されていると判断した。

また、最小の無毒性量に近い投与量におけるラットを用いた動物代謝試験の経口吸収率は、胆汁中排泄試験の 2 mg/kg 体重投与群の 79.47~80.80 % であり (表 5)、供試動物の性別による顕著な違いはなく、いずれの総回収率も 90 % を超え十分に高いことから、AOEL の設定に当たっての経口吸収率は、雌雄の経口吸収率の算術平均である 80.1 % とし、80 % を超えることから、AOEL の設定に当たって、経口吸収率による補正は必要ないと判断した。

表 5 ペントキサゾンを単回経口投与した場合の経口吸収率 (%TAR)

投与量	2 mg/kg 体重		500 mg/kg 体重	
	雄	雌	雌	雄
性別				
経口吸収率	80.80	79.47	13.75	15.18
総回収率	97.76	95.33	100.32	95.56

表の値は投与後 48 時間の 4 匹の平均値

以上の結果から、イヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験の無毒性量 23.1 mg/kg 体重/日を、安全係数 100 で除した 0.23 mg/kg 体重/日を農薬使用者暴露許容量 (AOEL) と設定した。

AOEL	0.23 mg/kg 体重/日
(AOEL 設定根拠試験)	1 年間反復経口投与毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	1 年間
(投与方法)	混餌投与
(無毒性量)	23.1 mg/kg 体重/日
(毒性所見)	ALP 増加、肝細胞肥大等
(安全係数)	100
(経口吸収率)	補正しない

表 6 AOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	AOEL 設定に関連する エンドポイント*
ラット	90 日間 反復経口 投与毒性 (資料 12)	雌雄：0、80、400、2000、 10000 ppm 雄：0、4.65、23.6、117、606 雌：0、5.24、26.1、129、664	雄：117 雌：26.1	雄：606 雌：129	雌雄：胆管増生等
	2 世代 繁殖毒性 GLP (資料 26)	雌雄：0、50、1000、10000 ppm P 雄：0、3.57、71.2、716 P 雌：0、4.07、84.5、821 F <sub>1</sub> 雄：0、4.14、85.5、858 F <sub>1</sub> 雌：0、4.51、98.6、986	親動物及び児 動物： P 雄：71.2 P 雌：84.5 F <sub>1</sub> 雄：85.5 F <sub>1</sub> 雌：98.6	親動物及び児 動物： P 雄：716 P 雌：821 F <sub>1</sub> 雄：858 F <sub>1</sub> 雌：986	親動物 雌雄：肝比重量増加等 児動物 雌雄：生後 21 日低体重  繁殖能に対する影響は認められな かった。
	発生毒性 GLP (資料 27)	0、40、200、1000 (妊娠 6～15 日投与)	母動物：1000 胎 児：1000	母動物：－ 胎 児：－	母動物：毒性所見なし 胎児：毒性所見なし  催奇形性は認められなかった。
	2 年間 反復経口投 与毒性/ 発がん性 併合 GLP (資料 24)	0、200、1000、5000 ppm 雄：0、6.92、35.2、181 雌：0、8.74、43.8、225	雄：35.2 雌：43.8	雄：181 雌：225	雌雄：膀胱粘膜上皮び慢性過形成等  雌で膀胱移行上皮乳頭腫発生増加
マウス	90 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 13)	雌雄：0、80、400、2000、 10000 ppm 雄：0、9.79、48.0、251、1240 雌：0、10.9、54.3、271、1430	雄：251 雌：54.3	雄：1240 雌：271	雄：膀胱粘膜上皮過形成等 雌：膀胱粘膜上皮好酸性小体沈着
ウサギ	発生毒性 GLP (資料 28)	0、100、300、1000 (妊娠 6～18 日投与)	母動物：100 胎 児：100	母動物：300- 胎 児：－	母動物：死亡、流産、早産等 胎児：毒性所見なし  催奇形性は認められなかった。
イヌ	90 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 14)	雌雄：0、400、2000、10000 ppm 雄：0、12.3、58.8、312 雌：0、13.2、64.3、318	雄：58.8 雌：64.3	雄：312 雌：318	雌雄：ALP 増加、肝細胞肥大等
	1 年間 反復経口投 与毒性 GLP (資料 15)	雌雄：0、200、1000、5000 ppm 雄：0、4.50、23.1、113 雌：0、4.76、25.2、121	雄：23.1 雌：25.2	雄：113 雌：121	雌雄：ALP 増加、肝細胞肥大等

\*：最小毒性量で認められた所見の概要を示す。

－：最小毒性量は設定できなかった。

#### IV. 急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL)

ペントキサゾンの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったことから、急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL) は設定する必要がないと判断した。

AAOEL

設定の必要なし

## V. 暴露量の推計

### 1. 経皮吸収試験

ペントキサゾンを含む農薬製剤で実施した経皮吸収試験結果は提出されていない。

### 2. 圃場における農薬使用者暴露

ペントキサゾンを含む農薬製剤で実施した圃場における農薬使用者暴露試験結果は提出されていない。

### 3. 暴露量の推計

申請された製剤について、I. の 5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（別添 1）に従って使用した場合の暴露量を予測式により推計した。

推計に当たっては、「農薬使用者への影響評価ガイダンス」及び「予測式に分類していない使用方法についての使用者安全確保の考え方」（令和 4 年 12 月 1 日農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会決定、令和 6 年 10 月 24 日最終改訂）（以下「部会決定」という。）に準拠した。

推計に用いたパラメータ等及び暴露量の推計結果を別添 2 に示す。

## VI. リスク評価結果

I. の 5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（別添 1）に従って使用した場合の暴露量は、AOEL を下回っていた（別添 2）。

## 評価資料

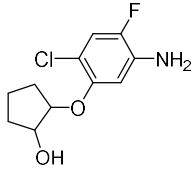
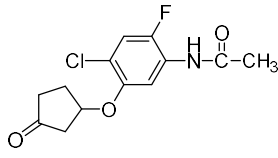
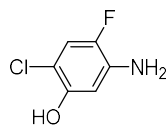
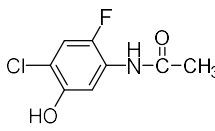
資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
1	2024	農業評価書 ペントキサゾン 食品安全委員会、公表 URL : <a href="https://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kya20231025173&amp;fileId=210">https://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kya20231025173&amp;fileId=210</a>
2	1995	KPP-314 のラットにおける血中キネティックス、体内分布、胆汁排泄、および組織中残留物 GLP、未公表
3	1995	Study to Define the Metabolism of [ <sup>14</sup> C]KPP-314 in Rat GLP、未公表
4	2011	[ <sup>14</sup> C]ペントキサゾン：ラットにおける体内運命試験 胆汁排泄試験
5	1991	KPP-314 のラットにおける急性経口毒性試験 GLP、未公表
6	2019	ペントキサゾン原体：ラットを用いた急性経口毒性試験 GLP、未公表
7	2022	ペントキサゾン原体のラットにおける急性経口投与毒性試験 GLP、未公表
8	1991	KPP-314 のマウスにおける急性経口毒性試験 GLP、未公表
9	1991	KPP-314 のラットにおける急性経皮毒性試験 GLP、未公表
10	1995	KPP-314 のラットを用いた急性吸入毒性試験報告書 GLP、未公表
11	1996	KPP-314 のモルモットにおける皮膚感作性試験 GLP、未公表
12	1992	KPP-314 のラットにおける 13 週間亜急性経口毒性試験 GLP、未公表
13	1993	KPP-314 のマウスにおける 13 週間亜急性経口毒性試験 GLP、未公表
14	1993	KPP-314 のイヌにおける 13 週間亜急性経口毒性試験 GLP、未公表
15	1995	KPP-314 のイヌにおける 12 カ月間慢性経口毒性試験 GLP、未公表
16	1995	KPP-314 の微生物を用いた変異原性試験 GLP、未公表
17	2019	ペントキサゾン原体：細菌を用いた復帰突然変異試験 GLP、未公表
18	2022	ペントキサゾン原体の細菌を用いた復帰突然変異試験 GLP、未公表
19	1994	KPP-314 の CHL 細胞を用いた染色体異常試験 GLP、未公表
20	1992	KPP-314 のマウスを用いた小核試験 GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
21	1992	KPP-314 のマウス経口投与における小核試験 GLP、未公表
22	2008	ペントキサゾン：2 回反復投与によるラット膀胱コメットアッセイおよび小核試験 GLP、未公表
23	2008	ペントキサゾン：4 週間反復投与によるラット膀胱コメットアッセイ および小核試験 GLP、未公表
24	1995	KPP-314 のラットにおける 24 カ月間経口慢性毒性・発癌性試験 GLP、未公表
25	1995	KPP-314 のマウスにおける 18 カ月間発癌性試験 GLP、未公表
26	1993	KPP-314 のラットにおける繁殖毒性 GLP、未公表
27	1992	KPP-314 のラットにおける催奇形性試験 GLP、未公表
28	1993	KPP-314 のウサギにおける催奇形性試験 GLP、未公表
29	1996	粘膜上皮の Proliferating cell nuclear antigen (PCNA) 免疫染色追 非 GLP、未公表
30	1996	KPP-314 のラットにおける 2 週間混餌投与試験 膀胱粘膜上皮に及ぼす影響の検索 非 GLP、未公表
31	1996	KPP-314 のラットの膀胱粘膜上皮に及ぼす影響の検索-1 非 GLP、未公表
32	2022	ペントキサゾン公表文献報告書 URL : <a href="https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ha-13.pdf">https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ha-13.pdf</a>
33	2022	ペントキサゾンの試験成績の概要及び考察 未公表

別紙1 代謝物記号

記号	(略称)	化学名	構造式
I	ペントキサゾン 水和体	推定構造 1 <i>N</i> -(4-クロロ-5-シクロペンチルオキシ-2-フルオロフェニル)- <i>N</i> -(3-メチル-2-オキソブタノイル)カルバミン酸	
		推定構造 2 3-(4-クロロ-5-シクロペンチルオキシ-2-フルオロフェニル)-5-イソプロピル-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン	
II	酸化体-1	3-(4-クロロ-5-シクロペンチルオキシ-2-フルオロフェニル)-5-[( <i>E</i> )-1-ヒドロキシ-2-プロピリデン]-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン	
		3-(4-クロロ-5-シクロペンチルオキシ-2-フルオロフェニル)-5-[( <i>Z</i> )-1-ヒドロキシ-2-プロピリデン]-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン	
		3-(4-クロロ-5-シクロペンチルオキシ-2-フルオロフェニル)-5-(1,3-ジヒドロキシ-2-プロピリデン)-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン	
III	加水分解体	<i>N</i> -(4-クロロ-5-シクロペンチルオキシ-2-フルオロフェニル)-3-メチル-2-オキソブタナミド	
IV	酸化体-2	トランス体 ( <i>E</i> ) 3-[4-クロロ-2-フルオロ-5-[(1 <i>R</i> *,3 <i>R</i> *)-3-ヒドロキシシクロペンチルオキシ]フェニル]-5-[( <i>E</i> )-1-ヒドロキシ-2-プロピリデン]-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン	

		<p>トランス体 (Z)</p> <p>3-[4-クロロ-2-フルオロ-5-[(1R*,3R*)-3-ヒドロキシシクロペンチルオキシ]フェニル]-5-[(Z)-1-ヒドロキシ-2-プロピリデン]-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン</p>	
		<p>シス体 (E)</p> <p>3-[4-クロロ-2-フルオロ-5-[(1R*,3S*)-3-ヒドロキシシクロペンチルオキシ]フェニル]-5-[(E)-1-ヒドロキシ-2-プロピリデン]-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン</p>	
		<p>シス体 (Z)</p> <p>3-[4-クロロ-2-フルオロ-5-[(1R*,3S*)-3-ヒドロキシシクロペンチルオキシ]フェニル]-5-[(Z)-1-ヒドロキシ-2-プロピリデン]-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン</p>	
V	脱-シクロペンチル体-1	3-(4-クロロ-2-フルオロ-5-ヒドロキシフェニル)-5-イソプロピリデン-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン	
VI		N-(4-クロロ-2-フルオロ-5-ヒドロキシフェニル)-2-ヒドロキシ-3-メチルブタナミド	
VII		<p>E-フォーム</p> <p>3-(4-クロロ-2-フルオロ-5-ヒドロキシフェニル)-5-[(E)-1-ヒドロキシ-2-プロピリデン]-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン</p>	
		<p>Z-フォーム</p> <p>3-(4-クロロ-2-フルオロ-5-ヒドロキシフェニル)-5-[(Z)-1-ヒドロキシ-2-プロピリデン]-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン</p>	

VIII	アニン体-1	4-クロロ-2-フルオロ-5-(2-ヒドロキシシクロペンチルオキシ) アニリン	
IX		<i>N</i> -[4-クロロ-2-フルオロ-5-(3-オキソシクロペンチルオキシ) フェニル]アセタミド	
X	アニン体-2	5-アミノ-2-クロロ-4-フルオロフェ ノール	
X I		<i>N</i> -(4-クロロ-2-フルオロ-5-ヒドロ キシフェニル)アセタミド	

## 別紙2 用語及び略語

AAOEL	Acute Acceptable Operator Exposure Level	急性農薬使用者暴露許容量
ADI	Acceptable Daily Intake	許容一日摂取量
ALP	Alkaline Phosphatase	アルカリホスファターゼ
AOEL	Acceptable Operator Exposure Level	農薬使用者暴露許容量
AST	Aspartate Aminotransferase	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ [=グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミ ナーゼ (GOT)]
ARfD	Acute Reference Dose	急性参照用量
BrdU	bromodeoxyuridine	5-ブromo-2'-デオキシウリジン
CPK	Creatinine Phosphokinase	クレアチニンホスホキナーゼ
GLP	Good laboratory practice	優良試験所規範
Hb	Hemoglobin	ヘモグロビン (血色素量)
Ht	Hematocrit value	ヘマトクリット値
LC <sub>50</sub>	median lethal concentration	半数致死濃度
LD <sub>50</sub>	median lethal dose	半数致死量
LOAEL	Lowest-Observed-Adverse-Effect Level	最小毒性量
MCHC	Mean Corpuscular Hemoglobin Concentration	平均赤血球血色素濃度
MCV	Mean Corpuscular Volume	平均赤血球容積
NOAEL	No-Observed-Adverse-Effect-Level	無毒性量
PCNA	Proliferating Cell Nuclear Antigen	増殖性細胞核抗原
ppm	parts per million	百万分の1(10 <sup>-6</sup> )
RBC	Red Blood Cell count	赤血球数
T.Chol	total cholesterol	総コレステロール
TG	triglycerides	トリグリセリド

別添 1：適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（ペントキサゾン）

目 次

1. 登録番号 19845：ベクサーフロアブル、 登録番号 22865：ベアスフロアブル （ペントキサゾン 2.9%水和剤） .....	6
2. 登録番号 19847：ベクサー 1 キロ粒剤、 登録番号 22866：ベアス 1 キロ粒剤 （ペントキサゾン 1.5%粒剤） .....	6
3. 登録番号 19848：テマカットフロアブル、 登録番号 19849：SDS テマカットフロアブル （ダイムロン 28.0%・ペントキサゾン 7.2%水和剤） .....	7
4. 登録番号 19853：日産草笛フロアブル、 登録番号 21116：草笛フロアブル、 登録番号 21621：協友草笛フロアブル （クミルロン 27.4%・ペントキサゾン 8.2%水和剤） .....	8
5. 登録番号 19854：科研草笛ジャンボ、 登録番号 21115：草笛ジャンボ、 登録番号 21620：協友草笛ジャンボ （クミルロン 15.0%・ペントキサゾン 4.5%剤） .....	9
6. 登録番号 19869：ユートピア粒剤 1 5 （シクロスルファムロン 0.20%・ペントキサゾン 1.5%粒剤） .....	10
7. 登録番号 19872：ショキニーフロアブル （プロモブチド 18.0%・ペントキサゾン 4.0%水和剤） .....	10
8. 登録番号 20156：ユートピア 1 キロ粒剤 （シクロスルファムロン 0.60%・ペントキサゾン 4.5%粒剤） .....	11
9. 登録番号 20491：トップガンフロアブル （ピリミノバックメチル 0.83%・プロモブチド 17.0%・ベンスルフロロンメチル 1.3%・ペントキサ ゾン 2.8%水和剤） .....	12
10. 登録番号 20493：トップガンLフロアブル （ピリミノバックメチル 0.56%・プロモブチド 17.0%・ベンスルフロロンメチル 0.93%・ペント キサゾン 2.8%水和剤） .....	13
11. 登録番号 20634：フォーカスショットジャンボ、 登録番号 21105：科研フォーカスショットジャンボ （ベンゾビシクロン 4.0%・ペントキサゾン 4.0%粒剤） .....	14

1 2.	登録番号 20822 : クミアイサキドリ EW、 登録番号 22742 : シンウチ EW、 登録番号 23099 : イネゼット EW (ブタクロール 12.0 %・ペントキサゾン 4.0 %乳剤)	14
1 3.	登録番号 20993 : ショキニー 2 5 0 グラム (ブロモブチド 24.0 %・ペントキサゾン 6.0 %剤)	15
1 4.	登録番号 21155 : トップガン 2 5 0 グラム (ピリミノバックメチル 1.8 %・ブロモブチド 36.0 %・ベンスルフロロンメチル 3.0 %・ペントキサ ゾン 8.0 %剤)	15
1 5.	登録番号 21165 : SDSダッシュワンフロアブル、 登録番号 21166 : ホクコーダッシュワンフロアブル (ダイムロン 22.9 %・ペントキサゾン 3.8 %水和剤)	16
1 6.	登録番号 21167 : トップガン L 2 5 0 グラム (ピリミノバックメチル 1.8 %・ブロモブチド 36.0 %・ベンスルフロロンメチル 2.0 %・ペントキサ ゾン 8.0 %剤)	17
1 7.	登録番号 21208 : プレッサフロアブル、 登録番号 21209 : SDSプレッサフロアブル (ベンゾビシクロン 3.9 %・ペントキサゾン 3.9 %水和剤)	18
1 8.	登録番号 21375 : トップガン G T 1 キロ粒剤 7 5 (ピリミノバックメチル 0.45 %・ブロモブチド 9.0 %・ベンスルフロロンメチル 0.75 %・ペントキ サゾン 2.0 %粒剤)	19
1 9.	登録番号 21378 : トップガン G T 1 キロ粒剤 5 1 (ピリミノバックメチル 0.45 %・ブロモブチド 9.0 %・ベンスルフロロンメチル 0.51 %・ペントキ サゾン 2.0 %粒剤)	20
2 0.	登録番号 21381 : トップガンジャンボ (ピリミノバックメチル 1.8 %・ブロモブチド 36.0 %・ベンスルフロロンメチル 3.0 %・ペントキサ ゾン 8.0 %剤)	21
2 1.	登録番号 21384 : トップガン L ジャンボ (ピリミノバックメチル 1.8 %・ブロモブチド 36.0 %・ベンスルフロロンメチル 2.0 %・ペントキサ ゾン 8.0 %剤)	22
2 2.	登録番号 21403 : クミアイサキドリ 1 キロ粒剤、 登録番号 22743 : シンウチ 1 キロ粒剤 (ブタクロール 5.0 %・ペントキサゾン 1.5 %粒剤)	23
2 3.	登録番号 21829 : ヨシキタ 1 キロ粒剤 (イマゾスルフロロン 0.90 %・ブロモブチド 9.0 %・ペントキサゾン 3.9 %粒剤)	24
2 4.	登録番号 21831 : ヨシキタフロアブル (イマゾスルフロロン 1.7 %・ブロモブチド 16.3 %・ペントキサゾン 7.0 %水和剤)	25

25.	登録番号 22309 : ヨシキタジャンボ (イマゾスルフロン 2.25%・ブロモブチド 22.5%・ペントキサゾン 9.75%粒剤)	26
26.	登録番号 22322 : サインヨシフロアブル (ペントキサゾン 8.6%水和剤)	26
27.	登録番号 22420 : M I Cスウィープフロアブル (ピラゾレート 20.0%・ペントキサゾン 4.0%水和剤)	27
28.	登録番号 22655 : クリアホープフロアブル、 登録番号 22656 : 兼商クリアホープフロアブル (ペントキサゾン 4.0%・ACN18.0%水和剤)	27
29.	登録番号 22846 : 半蔵 1 キロ粒剤 (シクロスルファムロン 0.50%・ベンゾビシクロン 2.0%・ペントキサゾン 3.9%粒剤)	28
30.	登録番号 23008 : ホクコーメテオ 1 キロ粒剤 (ペントキサゾン 2.5%粒剤)	28
31.	登録番号 23009 : ホクコーメテオフロアブル (ペントキサゾン 5.0%水和剤)	29
32.	登録番号 23225 : イネヒーロー 1 キロ粒剤、 登録番号 23226 : 日産イネヒーロー 1 キロ粒剤 (ダイムロン 10.0%・ペントキサゾン 3.0%・メタゾスルフロン 1.0%粒剤)	30
33.	登録番号 23525 : イネヒーロージャンボ、 登録番号 23526 : 日産イネヒーロージャンボ (ダイムロン 25.0%・ペントキサゾン 7.5%・メタゾスルフロン 2.5%粒剤)	31
34.	登録番号 23572 : ゲキテツ 1 キロ粒剤 (ピラゾスルフロンエチル 0.30%・ベンチオカーブ 21.0%・ペントキサゾン 4.0%粒剤)	32
35.	登録番号 23582 : テマエース 1 キロ粒剤 (イマゾスルフロン 0.90%・ダイムロン 15.0%・ペントキサゾン 3.9%粒剤)	32
36.	登録番号 23583 : テマエースフロアブル (イマゾスルフロン 1.7%・ダイムロン 28.0%・ペントキサゾン 7.3%水和剤)	33
37.	登録番号 23735 : ゼータタイガーフロアブル、 登録番号 23873 : ドラゴンホーク Zフロアブル、 登録番号 24244 : ニマイメ Zフロアブル (プロピリスルフロン 1.7%・ブロモブチド 16.8%・ペントキサゾン 3.7%水和剤)	34
38.	登録番号 23747 : ゼータハンマー 1 キロ粒剤 (プロピリスルフロン 0.90%・ペントキサゾン 2.0%粒剤)	35
39.	登録番号 23748 : ゼータタイガー 1 キロ粒剤、 登録番号 23875 : ドラゴンホーク Z 1 キロ粒剤、 登録番号 24245 : ニマイメ Z 1 キロ粒剤 (プロピリスルフロン 0.90%・ブロモブチド 9.0%・ペントキサゾン 2.0%粒剤)	36

4 0.	登録番号 23749 : ゼータタイガージャンボ、 登録番号 23877 : ドラゴンホーク Z ジャンボ、 登録番号 24246 : ニマイメ Z ジャンボ (プロピリスルフロロン 3.0 %・ブロモブチド 30.0 %・ペントキサゾン 6.67 %粒剤)	37
4 1.	登録番号 23753 : イネヒーローフロアブル (ダイムロン 19.0 %・ペントキサゾン 5.7 %・メタゾスルフロロン 1.9 %水和剤)	38
4 2.	登録番号 23822 : ホクコーメテオジャンボ (ペントキサゾン 8.3 %粒剤)	39
4 3.	登録番号 23837 : イネショット 1 キロ粒剤 (ブロモブチド 9.0 %・ペントキサゾン 2.0 %粒剤)	39
4 4.	登録番号 23878 : ゼータハンマーフロアブル (プロピリスルフロロン 1.7 %・ペントキサゾン 3.9 %水和剤)	40
4 5.	登録番号 23879 : ゼータハンマージャンボ (プロピリスルフロロン 4.5 %・ペントキサゾン 10.0 %粒剤)	41
4 6.	登録番号 23995 : S D S イザナギフロアブル、 登録番号 23996 : イザナギフロアブル (トリアファモン 0.94 %・ベンゾビシクロン 3.8 %・ペントキサゾン 5.7 %水和剤)	42
4 7.	登録番号 24228 : ゼータタイガー 3 0 0 F G、 登録番号 24229 : ドラゴンホーク Z 3 0 0 F G (プロピリスルフロロン 3.0 %・ブロモブチド 30.0 %・ペントキサゾン 6.67 %粒剤)	43
4 8.	登録番号 24336 : S D S イザナギ 1 キロ粒剤、 登録番号 24337 : イザナギ 1 キロ粒剤 (トリアファモン 0.50 %・ベンゾビシクロン 2.0 %・ペントキサゾン 2.5 %粒剤)	44
4 9.	登録番号 24357 : ショキニー 1 キロ粒剤 (ブロモブチド 9.0 %・ペントキサゾン 2.0 %粒剤)	44
5 0.	登録番号 24376 : トップガン R 1 キロ粒剤 (ピリミノバックメチル 0.45 %・ブロモブチド 9.0 %・ベンスルフロロンメチル 0.75 %・ペントキサゾン 2.0 %粒剤)	45
5 1.	登録番号 24377 : トップガン R 豆つぶ 2 5 0 (ピリミノバックメチル 1.8 %・ブロモブチド 36.0 %・ベンスルフロロンメチル 3.0 %・ペントキサゾン 8.0 %剤)	46
5 2.	登録番号 24378 : トップガン R ジャンボ (ピリミノバックメチル 1.8 %・ブロモブチド 36.0 %・ベンスルフロロンメチル 3.0 %・ペントキサゾン 8.0 %剤)	47
5 3.	登録番号 24379 : トップガン R フロアブル (ピリミノバックメチル 0.83 %・ブロモブチド 17.0 %・ベンスルフロロンメチル 1.3 %・ペントキサゾン 2.8 %水和剤)	48

5 4.	登録番号 24469 : ゼータジャガーフロアブル (フェンキノトリオン 5.7%・プロピリスルフロロン 1.7%・ペントキサゾン 3.8%水和剤)	.....49
5 5.	登録番号 24470 : ゼータジャガー 1 キロ粒剤 (フェンキノトリオン 3.0%・プロピリスルフロロン 0.90%・ペントキサゾン 2.0%粒剤)	.....50
5 6.	登録番号 24471 : ゼータジャガージャンボ (フェンキノトリオン 15.0%・プロピリスルフロロン 4.5%・ペントキサゾン 10.0%粒剤)	.....51
5 7.	登録番号 24477 : 流星フロアブル (フェンキノトリオン 6.0%・ペントキサゾン 5.0%・メタゾスルフロロン 2.0%水和剤)	.....52
5 8.	登録番号 24478 : 流星 1 キロ粒剤 (フェンキノトリオン 3.0%・ペントキサゾン 2.5%・メタゾスルフロロン 1.0%粒剤)	.....53
5 9.	登録番号 24479 : 流星ジャンボ (フェンキノトリオン 7.5%・ペントキサゾン 6.25%・メタゾスルフロロン 2.5%粒剤)	.....54
6 0.	登録番号 24480 : 流星エア一粒剤 (フェンキノトリオン 7.5%・ペントキサゾン 6.25%・メタゾスルフロロン 2.5%粒剤)	.....55
6 1.	登録番号 24610 : SDSイザナギジャンボSD、 登録番号 24611 : イザナギジャンボSD (トリアファモン 2.5%・ベンゾビスクロロン 10.0%・ペントキサゾン 15.0%粒剤)	.....55
6 2.	登録番号 24612 : SDSイザナギ200SD粒剤、 登録番号 24613 : イザナギ200SD粒剤 (トリアファモン 2.5%・ベンゾビスクロロン 10.0%・ペントキサゾン 15.0%粒剤)	.....56
6 3.	登録番号 24630 : イネヒーローエア一粒剤 (ダイムロン 25.0%・ペントキサゾン 7.5%・メタゾスルフロロン 2.5%粒剤)	.....56
6 4.	登録番号 ー※ : イネブレイブ 1 キロ粒剤 (ジメタメトリン 0.6%・ペントキサゾン 3.0%・メタゾスルフロロン 0.8%粒剤)	.....57

※新規登録申請中

1. 登録番号 19845 : ベクサーフロアブル、  
 登録番号 22865 : ベアスフロアブル  
 (ペントキサゾン 2.9 %水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ	移植時	500 mL/10 a	2回 以内	田植同時 散布機で 施用	2回以内
		植代後~移植前7日 または 移植直後~ルビエ発生始期 ただし、移植後 30日まで			原液湛水 散布又は 水口施用	
ひえ(水田 移植栽培)	原液湛水 散布					
いぐさ	一年生雑草	植付後~生育期 (雑草発生前)		3回 以内		3回 以内

2. 登録番号 19847 : ベクサー 1 キロ粒剤、  
 登録番号 22866 : ベアス 1 キロ粒剤  
 (ペントキサゾン 1.5 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ	移植時	1 kg/10 a	2回 以内	田植同時散 布機で施用	2回以内
		植代後~移植前7日 または 移植直後~ルビエ発生始期 ただし、移植後 30日まで			湛水散布	
いぐさ	一年生雑草				植付後~生育期 (雑草発生前)	

3. 登録番号 19848 : テマカットフロアブル、  
 登録番号 19849 : SDS テマカットフロアブル  
 (ダイムロン 28.0 % ・ ペントキサゾン 7.2 % 水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	ダイムロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ハラモダカ クログワイ(北海道を除く) コウキカ <sup>ラ</sup> (東北、関東・東山・東海、九州) シズイ(東北)	植代後~ 移植前7日 または 移植直後~ ル <sup>ビ</sup> エ1葉期 ただし、 移植後30日 まで	砂壤土~ 埴土	500 mL/10 a	1回	原液湛水 散布又は 水口施用	全域	3回 以内 (育苗 箱散布 は1回 以内、 本田で は2回 以内)	2回 以内
		移植時				田植同時 散布機で 施用			
		植代時 (移植 7日前 まで)				植代時に 原液のま ま散布し 混和する	全域(北 海道を 除く)の 普通期 栽培地 帯及び 関東・東 山・東 海、九 州の早 期栽培 地帯		
直播水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ	湛水直播の 代かき時 (は種7日 前まで)	壤土~ 埴土	300 mL/10 a		代かき時 に原液の まま散布 し混和す る	全域 (北海道 を除く)	2回以 内	
		湛水直播の 代かき後~ は種前7日				原液湛水 散布			

4. 登録番号 19853 : 日産草笛フロアブル、  
 登録番号 21116 : 草笛フロアブル、  
 登録番号 21621 : 協友草笛フロアブル  
 (クミロン 27.4 %・ペントキサゾン 8.2 %水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	クミロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植 水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ハラオモダカ	移植時	500 mL/10 a	1 回	田植同時散布機で施用	2 回以内	2 回以内
		植代時(移植前7日まで)			植代時に原液のまま散布し混和する。		
		植代後~移植前7日 又は移植直後~ ルビエ1葉期 但し、移植後 30日まで			原液 湛水散布		
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ コウキヤガラ クログワイ シズイ	移植時	田植同時散布機で施用				
		植代後~移植前7日 又は移植直後~ ルビエ1葉期 但し、移植後 30日まで	300 mL/10 a (少量散布)		原液 湛水散布		

5. 登録番号 19854 : 科研草笛ジャンボ、  
 登録番号 21115 : 草笛ジャンボ、  
 登録番号 21620 : 協友草笛ジャンボ  
 (クミルロン 15.0 % ・ ペントキサゾン 4.5 % 剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	クミルロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ヘラオモダカ	植代後~移植前 7 日	20 個 (1 kg)/10 a	1 回	水田に 投げ入 れる。	2 回以内	2 回以内
	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ コウキカガラ	又は移植直後~ ルビエ 1 葉期 但し、移植後 30 日まで	10 個 (500 g)/10 a				
	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ	植代後~移植前 7 日 又は移植直後~ ルビエ発生始期 但し、移植後 30 日まで	5 個 (250 g)/10 a				

6. 登録番号 19869 : ユートピア粒剤 15

(シクロスルファミロン 0.20 % ・ ペントキサゾン 1.5 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	シクロスルファミロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植 水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ハラオモダカ オモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	3 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用	2 回以内	2 回以内
		移植直後～ ルビエ 1.5 葉期 ただし、 移植後 30 日 まで			湛水散布		

7. 登録番号 19872 : ショキニーフロアブル

(プロモブチド 18.0 % ・ ペントキサゾン 4.0 % 水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プロモブチドを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植 水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ハラオモダカ クログワイ	移植時	500 mL/10 a	1 回	田植同時散布機で施用	2 回以内	2 回以内
		移植直後～ ルビエ 1 葉期 但し、移植後 30 日まで			原液湛水散布又は水口施用		
	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ	300 mL/10 a (少量散布)	原液湛水散布				

8. 登録番号 20156 : ユートピア 1 キロ粒剤

(シクロスルフアムロン 0.60 % ・ ペントキサゾン 4.5 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯		
移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ(北海道を除く) ハラオモダカ(北海道) クログライ(北海道、北陸を除く) オモダカ ヒルムシロ(北陸を除く) アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	砂壤土~埴土	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用	北海道		
			壤土~埴土				東北 北陸		
			砂壤土~埴土				関東・東山・東海の普通期及び早期栽培地帯		
			壤土~埴土				近畿・中国・四国、九州の普通期及び早期栽培地帯		
		移植直後~ ルビエ1.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	砂壤土~埴土			1 kg/10 a	1 回	湛水散布	北海道
			壤土~埴土						東北 北陸
			砂壤土~埴土						関東・東山・東海の普通期及び早期栽培地帯
			壤土~埴土						近畿・中国・四国、九州の普通期及び早期栽培地帯
			砂壤土						
			砂壤土						

シクロスルフアムロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

9. 登録番号 20491 : トップガンフロアブル

(ピリミノバックメチル 0.83 %・プロモブチド 17.0 %・ベンスルフロンメチル 1.3 %・ペントキサゾン 2.8 %水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ(東北)	移植後 5 日~ヒェ3 葉期 但し、移植後 30 日まで	砂壤土 ~埴土	500 mL/10 a	1 回	原液 湛水散布	北海道
	ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ クログワイ(東北) オモダカ(東北) シズイ(東北)	移植直後~ヒェ3 葉期 但し、移植後 30 日まで					
	アオイトロ・藻類による表層はく離	移植時				田植同時 散布機で 施用	
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ	稲 1.5 葉期~ヒェ3 葉期 但し、収穫 90 日前まで	壤土~ 埴土			原液 湛水散布	北海道、 東北

ピリミノバックメチルを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

10. 登録番号 20493 : トップガンLフロアブル

(ピリミノバックメチル 0.56%・プロモブチド 17.0%・ベンスルフロンメチル 0.93%・ペントキサゾン 2.8%水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ホトタカ(北陸を除く) クログワイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後~ヒ <sup>2</sup> エ3葉期 但し、移植後30日まで	砂壤土 ~埴土	500 mL/10 a	1回	原液 湛水散布	全域(北海道、東北を除く)の普通期及び早期栽培地域
		移植時				田植同時 散布機で 施用	
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲1葉期~ヒ <sup>2</sup> エ3葉期 但し、収穫90日前まで	壤土~ 埴土	500 mL/10 a	1回	原液 湛水散布	全域(北海道、東北を除く)
		稲1.5葉期~ヒ <sup>2</sup> エ3葉期 但し、収穫90日前まで	砂壤土				

ピリミノバックメチルを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

1 1. 登録番号 20634 : フォーカスショットジャンボ、  
 登録番号 21105 : 科研フォーカスショットジャンボ  
 (ベンゾビスクロン 4.0 % ・ ペントキサゾン 4.0 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ベンゾビスクロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ハラオモダカ ウリカ ヒルムシロ クログワイ シズイ コウキカガラ	移植直後~ ルビエ1.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	小包装(パック) 10 個 (500 g)/10 a	1 回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	3 回以内	2 回以内

1 2. 登録番号 20822 : クミアイサキドリ EW、  
 登録番号 22742 : シンウチ EW、  
 登録番号 23099 : イネゼット EW  
 (ブタクロール 12.0 % ・ ペントキサゾン 4.0 % 乳剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ブタクロールを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草及びマツバイ ホタルイ ハラオモダカ ミスガヤツリ クログワイ コウキカガラ	植代後~移植前7日 または移植直後~ ルビエ1 葉期 ただし、移植後 30 日まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布	2 回以内	2 回以内
		移植時			田植同時散布機で 施用		
		植代時(移植7日前 まで)			植代時に原液のまま 散布し混和する		
直播水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ	湛水直播の代かき時 (は種7日前まで)	300 mL/10 a		代かき時に 原液のまま 散布し混和する		
		湛水直播の 代かき後~ は種前7日			原液湛水散布		

1 3. 登録番号 20993 : ショキニー 250 グラム

(プロモブチド 24.0 %・ペントキサゾン 6.0 %剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プロモブチドを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ヘラモダカ	移植直後~ ルビエ1葉期 但し、移植後 30日まで	250 g/10 a	1回	湛水散布、 湛水周縁散布、 水口施用又は 無人航空機に よる散布	2回以内	2回以内

1 4. 登録番号 21155 : トップガン 250 グラム

(ピリミノバックメチル 1.8 %・プロモブチド 36.0 %・ベンスルフロンメチル 3.0 %・ペントキサゾン 8.0 %剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ(東北) ヘラモダカ	移植後3日~ ルビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで	砂壤土 ~ 埴土	250 g/10 a	1回	湛水散布、湛水 周縁散布または 無人ヘリコプターに よる散布	北海道
	オモダカ(東北) クログワイ(東北) シスイ(東北) ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後~ ルビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで					東北
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期~ ルビエ2.5葉期 但し、 収穫90日前まで					北海道、 東北

ピリミノバックメチルを含む農薬の総使用回数	プロモブチドを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

15. 登録番号 21165 : SDSダッシュワンフロアブル、  
 登録番号 21166 : ホクコーダッシュワンフロアブル  
 (ダイムロン 22.9%・ペントキサゾン 3.8%水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ダイムロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植 水稲	水田一年生雑草 及び マツハイ ホタルイ ミスガヤツリ ハラオモダカ クロクワイ	植代時(移植 7 日前まで)	500 mL/10 a	1 回	植代時に原液 のまま散布し 混和する	3 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、 本田では 2 回以内)	2 回以内
		移植時			田植同時散布 機で施用		
		植代後~移植前 7 日又は 移植直後~ ルビエ1 葉期 但し、移植後 30 日まで			原液湛水散布		

16. 登録番号 21167：トップガンL 250グラム

(ピリミノバックメチル 1.8%・プロモブチド 36.0%・ベンスルフロンメチル 2.0%・ペントキサゾン 8.0%剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ オモダカ クログワイ ヒルムシロ セリ アオイトロ・藻類による 表層はく離	移植直後～ヒエ 2.5葉期 但し、移植後 30日まで	砂壤土 ～埴土	250 g/10a	1回	湛水散布、 湛水周縁散 布または無 人ヘリコプターに よる散布	全域(北海道、 東北を除く)の 普通期及び早期 栽培地帯
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ アオイトロ・藻類による 表層はく離	稲1葉期～ヒエ 2.5葉期 但し、収穫90 日前まで					全域(北海道、 東北を除く)

ピリミノバックメチルを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

17. 登録番号 21208 : プレッサフロアブル、  
登録番号 21209 : SDS プレッサフロアブル  
(ベンゾビシクロン 3.9%・ペントキサゾン 3.9%水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植 水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ウリカ クログワイ シズイ ヒルムシロ コウキヤガラ	移植時	500 mL/10 a	1 回	田植同時 散布機で 施用	3 回以内	2 回以内
		移植直後~ ルビエ 1.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで			原液湛水 散布		

18. 登録番号 21375 : トップガンGT1キログラム75

(ピリミノバックメチル 0.45%・ブロモブチド 9.0%・ベンスルフロンメチル 0.75%・ペントキサゾン 2.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ(東北) ヘラオモダカ オモダカ(東北) クログリイ(東北) シスイ(東北) ヒルムシロ セリ アオイトロ・藻類による 表層はく離	移植時	砂壤土 ~ 埴土	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用	北海道 東北
	移植直後~ ルビエ3葉期 但し、移植後 30日まで	湛水散布					
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ	稲1葉期~ ルビエ3葉期 但し、収穫90 日前まで					

ピリミノバックメチルを含む 農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

19. 登録番号 21378 : トップガンGT1キログ粒剤51

(ピリミノバックメチル 0.45%・ブロモブチド 9.0%・ベンスルフロンメチル 0.51%・ペントキサゾン 2.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシ セリ オモダカ クログワイ ヨウキヤガラ(関東・東山・東海) アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	砂壤土 ~ 埴土	1 kg/10 a	1 回	田植同時 散布機で 施用	全域(北海道、東北を除く)の普通期及び早期栽培地域
	移植直後~ヒエ 3葉期 但し、移植後 30日まで	湛水散布					
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ セリ	稲1葉期~ヒエ 3葉期 但し、収穫 90日前まで					全域(北海道、東北を除く)

ピリミノバックメチルを含む 農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

20. 登録番号 21381 : トップガンジャンボ

(ピリミノバックメチル 1.8%・プロモブチド 36.0%・ベンスルフロンメチル 3.0%・ペントキサゾン 8.0%剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ(東北) ヘラモダカ ヒルムシ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日~ ルビエ2.5葉期 但し、移植後 30日まで	砂壤土 ~埴土	小包装(パック) 10個(250g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	北海道 東北

ピリミノバックメチルを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

2 1. 登録番号 21384 : トップガンLジャンボ

(ピリミノバックメチル 1.8%・ブロモブチド 36.0%・ベンスルフロンメチル 2.0%・ペントキサゾン 8.0%剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ(近畿・中国・四国を除く) セリ アオトドロ・藻類による表層はく離(近畿・中国・四国、九州)	移植後 3 日~ ルビエ 2.5 葉期 但し、移植後 30 日まで	砂壤土 ~埴土	小包装(パック) 10 個(250 g)/10 a	1 回	水田に 小包装 (パック) のまま 投げ入 れる。	全域(北海道、東北を除く)の普通期及び早期栽培地帯
直播 水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期~ルビ エ 2.5 葉期 但し、収穫 90 日前まで					全域(北海道、東北を除く)

ピリミノバックメチルを含む 農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

22. 登録番号 21403 : クミアイサキドリ 1 キロ粒剤、  
 登録番号 22743 : シンウチ 1 キロ粒剤  
 (ブタクロール 5.0 % ・ ペントキサゾン 1.5 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ブタクロールを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ クログライ コウキヤガラ	植代後~移植前7日 または移植直後~ ルベ1葉期 ただし、移植後 30日まで	1 kg/10 a	1回	湛水散布	2回以内	2回以内
		移植時			田植同時 散布機で 施用		

23. 登録番号 21829 : ヨシキタ 1 キロ粒剤

(イマズスルフロン 0.90 % ・ ブロモブチド 9.0 % ・ ペントキサゾン 3.9 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ(北海道を除く) ハラオモダカ(北海道、東北) シズイ(東北) クダマ(東北、関東・東山・東海、近畿・中国・四国、九州)	移植時	砂壤土~ 埴土	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用	全域の普通期及び早期栽培地帯
	オモダカ(東北、関東・東山・東海) コウキヤカラ(関東・東山・東海、近畿・中国・四国、九州) ヒルムシ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離(近畿・中国・四国を除く)	移植直後 ~ヒエ1.5 葉期 た だし、移 植後 30 日まで				湛水散布	

イマズスルフロンを含む農薬の 総使用回数	ブロモブチドを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

24. 登録番号 21831 : ヨシキタフロアブル

(イマゾスルフロン 1.7%・ブロモブチド 16.3%・ペントキサゾン 7.0%水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ(北海道を除く) ヘラオモダカ(北海道、東北) クログワイ(東北、関東・東山・東海、近畿・中国・四国、九州)	移植時	砂壤土~ 埴土	500 mL/10 a	1回	田植同時 散布機で 施用	全域の普通期及び 早期栽培地帯
	オモダカ(東北、関東・東山・東海) コウキヤガラ(東北、関東・東山・東海、近畿・中国・四国、九州) ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後 ~ルビエ1.5 葉期 ただし、 移植後 30日まで				原液湛水 散布	

イマゾスルフロンを含む農薬の 総使用回数	ブロモブチドを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

25. 登録番号 22309 : ヨシキタジャンボ

(イマズスルフロン 2.25%・ブロモブチド 22.5%・ペントキサゾン 9.75%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ(東北) ミスガヤツリ ウリカ クログワイ(東北、関東・東山・東海、近畿・中国・四国) オモダカ(東北、関東・東山・東海) コウキヤガラ(関東・東山・東海、近畿・中国・四国) ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離(東北)	移植直後 ~ヒェ1.5 葉期 ただし、 移植後 30日まで	砂壤土 ~埴土	小包装(パック) 10個 (400g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	全域(北海道、九州を除く)の普通期及び早期栽培地帯

イマズスルフロンを含む農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

26. 登録番号 22322 : サインヨシフロアブル

(ペントキサゾン 8.6%水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ クログワイ コウキヤガラ	植代時 (移植7日前まで)	500 mL/10a	2回 以内	植代時に原液のまま 散布し混和する	2回以内
		植代後~移植前7日 又は移植直後~ヒェ 1葉期ただし、 移植後30日まで			原液湛水散布	
		移植時			田植同時散布機で施用	
	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ	移植直後~ヒェ 1葉期ただし、 移植後30日まで	300 mL/10a		原液湛水散布	

27. 登録番号 22420 : M I C スウィープフロアブル

(ピラゾレート 20.0 %・ペントキサゾン 4.0 %水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ピラゾレートを 含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾン を含む農薬の 総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ハラモダカ ミスガヤツリ ウリカ クログライ モダカ	植代後~移植前 7日又は 移植直後~ ルビエ1葉期 ただし、 移植後 30日まで	500 mL/10 a	1回	原液湛水 散布又は 無人ヘリコプター による滴下	2回以内	2回以内

28. 登録番号 22655 : クリアホープフロアブル、

登録番号 22656 : 兼商クリアホープフロアブル

(ペントキサゾン 4.0 %・ACN 18.0 %水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ペントキサゾン を含む農薬の 総使用回数	ACN を含む 農薬の 総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ハラモダカ ミスガヤツリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	植代後~移植前7日 又は移植直後~ ルビエ1葉期 ただし、移植後 30日まで	500 mL/10 a	1回	原液湛水 散布又は 水口施用	2回以内	3回以内
		移植時			田植同時散 布機で施用		

29. 登録番号 22846 : 半蔵 1 キロ粒剤

(シクロスルフアムロン 0.50 % ・ ベンゾビシクロン 2.0 % ・ ペントキサゾン 3.9 %  
粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草 アオイトロ・藻類による 表層はく離	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時 散布機で施用
		移植直後~ヒエ 1.5 葉期 ただし、移植後 30 日まで			湛水散布
直播水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	稲 1 葉期~ヒエ 1.5 葉期 ただし、 収穫 90 日前まで			

シクロスルフアムロンを 含む農薬の総使用回数	ベンゾビシクロンを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾン を含む農薬の総使用回数
2 回以内	3 回以内	2 回以内

30. 登録番号 23008 : ホクコーメテオ 1 キロ粒剤

(ペントキサゾン 2.5 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ クマガリ	移植時	1 kg/10 a	2 回 以内	田植同時散 布機で施用	2 回以内
		植代後~移植前 7 日又は 移植直後~ヒエ 1 葉期 但し、移植後 30 日まで			湛水散布	

3 1. 登録番号 23009 : ホクコーメテオフロアブル  
(ペントキサゾン 5.0 %水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植 水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ クログライ	移植時	500 mL/10 a	2 回 以内	田植同時 散布機で施用	2 回以内
		植代後~移植前 7 日 又は移植直後~ ルビエ 1 葉期 但し、移植後 30 日まで			原液湛水散布 又は水口施用	

3 2. 登録番号 23225 : イネヒーロー 1 キロ粒剤、  
登録番号 23226 : 日産イネヒーロー 1 キロ粒剤

(ダイムロン 10.0 % ・ ペントキサゾン 3.0 % ・ メタゾスルフロン 1.0 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ダイムロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草及び マツバイ ホタル ウリカ ミズガヤツリ クダマ オモダカ シズイ ハラオモダカ ヒルムシロ セ ユキカガシ	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時 散布機で 施用	3 回以内(育苗箱散布は 1 回以内、 本田では 2 回以内)	2 回 以内	2 回 以内
		移植直後～ ルビエ 3 葉期 ただし、 移植後 30 日まで			湛水散布 又は無人 航空機に よる散布			
直播水稻	水田一年生雑草 及びマツバイ ホタル ミズガヤツリ ウリカ ヒルムシロ セ アオミドロ・ 藻類による表層はく離	稲 1.5 葉期～ ルビエ 3 葉期 ただし、 収穫 90 日前 まで				2 回以内		

33. 登録番号 23525：イネヒーロージャンボ、  
 登録番号 23526：日産イネヒーロージャンボ  
 (ダイムロン 25.0%・ペントキサゾン 7.5%・メタゾスルフロン 2.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稲	水田一年生雑草 及びマツハ <sup>イ</sup> ホタルイ ミスガヤツリ ウリカリ クログ <sup>ワ</sup> イ オモタ <sup>カ</sup> シスイ ヘラオモタ <sup>カ</sup> ヒルムシロ セリ コウキヤガラ アオミト <sup>ロ</sup> ・藻類による表層はく離	移植直後～ルビエ3葉期 ただし、 移植後30日まで	小包装(パ <sup>ッ</sup> ) 10個(400g)/10a	1回	水田に小包装(パ <sup>ッ</sup> )のまま 投げ入れる。

ダイムロンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の 総使用回数
3回以内(育苗箱散布は1回以内、 本田では2回以内)	2回以内	2回以内

### 3 4. 登録番号 23572 : ゲキテツ 1 キロ粒剤

(ピラゾスルフロンエチル 0.30 % ・ ベンチオカーブ 21.0 % ・ ペントキサゾン 4.0 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラモダカ(東北) ヒルムシロ セリ	移植直後 ~ヒエ 2葉期 但し、 移植後 30日まで	砂壤土 ~ 埴土	1 kg / 10 a	1 回	湛水 散布	東北
			壤土~ 埴土				北陸、関東・東山・東海の普通期及び 早期栽培地帯、近畿・中国・四国、九州 の普通期栽培地帯
		移植時	砂壤土 ~ 埴土			田植同時 散布機で 施用	東北
			壤土~ 埴土				北陸、関東・東山・東海の普通期及び 早期栽培地帯、近畿・中国・四国、九州 の普通期栽培地帯

ピラゾスルフロンエチルを含む 農薬の総使用回数	ベンチオカーブを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
1回	1回	2回以内

### 3 5. 登録番号 23582 : テマエース 1 キロ粒剤

(イマズスルフロン 0.90 % ・ ダイムロン 15.0 % ・ ペントキサゾン 3.9 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラモダカ(北海道、東 北、北陸) ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	砂壤土 ~ 埴土	1 kg / 10 a	1 回	田植同時 散布機で 施用	全域の 普通期及び早 期栽培地帯
		移植直後~ ヒエ1.5葉期 ただし、 移植後30日まで				湛水散布	

イマズスルフロンを含む農薬の 総使用回数	ダイムロンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2回以内	3回以内(育苗箱散布は1回以内、 本田では2回以内)	2回以内

36. 登録番号 23583 : テマエースフロアブル

(イマゾスルフロン 1.7%・ダイムロン 28.0%・ペントキサゾン 7.3%水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラモダカ(北海道、東北、北陸) ヒルムシロ クログワイ(東北、関東・東山・東海) オモダカ(東北、関東・東山・東海) シズイ(東北) セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	砂壤土 ~ 埴土	500 mL/10 a	1 回	田植同時 散布機で 施用	全域の 普通期及び早 期栽培地帯
		移植直後~ ルビエ1.5葉期 ただし、 移植後 30日まで				原液湛水 散布又は 水口施用	

イマゾスルフロンを含む農薬の 総使用回数	ダイムロンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	3 回以内(育苗箱散布は 1 回以内、本 田では 2 回以内)	2 回以内

37. 登録番号 23735 : ゼータタイガーフロアブル、  
登録番号 23873 : ドラゴンホーク Zフロアブル、  
登録番号 24244 : ニマイメ Zフロアブル  
(プロピリスルフロン 1.7%・ブロモブチド 16.8%・ペントキサゾン 3.7%水和  
剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラモダカ ミスガヤツリ ウリカワ エゾノサヤカグサ オモダカ クログワイ コウキヤガラ シズイ ヒルムシロ セリ アオイトロ・藻類による 表層はく離	移植後 3 日~ヒエ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布、水口施用又は 無人航空機による滴下
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオイトロ・藻類による 表層はく離	稲 1 葉期~ヒエ 3 葉期 ただし、収穫 90 日前まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布又は無人航空機 による滴下

プロピリスルフロンを含む農薬の 総使用回数	ブロモブチドを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

38. 登録番号 23747：ゼータハンマー 1 キロ粒剤

(プロピリスルフロン 0.90 %・ペントキサゾン 2.0 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ウリカワ オモダカ クログワイ コウキヤガラ シズイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時 散布機で 施用	2 回以内	2 回以内
	移植直後～ ルビエ3 葉期 ただし、移植 後 30 日まで	湛水散布 又は無人 航空機に よる散布					
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲 1 葉期～ ルビエ3 葉期 ただし、収穫 90 日前まで	1 kg/10 a	1 回	湛水散布 又は無人 航空機に よる散布		

39. 登録番号 23748 : ゼータタイガー 1 キロ粒剤、  
 登録番号 23875 : ドラゴンホーク Z 1 キロ粒剤、  
 登録番号 24245 : ニマイメ Z 1 キロ粒剤

(プロピリスルフロン 0.90 % ・ ブロモブチド 9.0 % ・ ペントキサゾン 2.0 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ウリカリ エゾノササカグサ オモダカ クログワイ コウキヤガラ シズイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用
	移植直後~ヒエ3 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	湛水散布又は無人航空機による 散布			
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカリ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	稲 1 葉期~ヒエ3 葉期 ただし、 収穫 90 日前まで	1 kg/10 a	1 回	湛水散布又は無人航空機による 散布

プロピリスルフロンを含む農薬の 総使用回数	ブロモブチドを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

40. 登録番号 23749 : ゼータタイガージャンボ、  
 登録番号 23877 : ドラゴンホーク Z ジャンボ、  
 登録番号 24246 : ニマイメ Z ジャンボ

(プロピリスルフロン 3.0 % ・ ブロモブチド 30.0 % ・ ペントキサゾン 6.67 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラモダカ ミスガヤツリ ウリカワ エゾノササカグサ オモダカ クログワイ コウキヤガラ シズイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後 3 日～ヒエ 3 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	小包装(パック) 10 個(300 g)/10 a	1 回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	稲 1 葉期～ヒエ 3 葉期 ただし、収穫 90 日前まで	小包装(パック) 10 個(300 g)/10 a	1 回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。

プロピリスルフロンを含む農薬の 総使用回数	ブロモブチドを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

4 1. 登録番号 23753 : イネヒーローフロアブル

(ダイムロン 19.0 % ・ ペントキサゾン 5.7 % ・ メタゾスルフロン 1.9 %水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ クログワイ オモダカ シズイ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ コウキヤガラ	移植後 5 日~ルビエ 3 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布 又は 無人ヘリコプターによる滴下

ダイムロンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の 総使用回数
3 回以内(育苗箱散布は 1 回以内、 本田では 2 回以内)	2 回以内	2 回以内

4 2. 登録番号 23822 : ホクコーメテオジャンボ  
(ペントキサゾン 8.3 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ	植代後~移植前7日 又は 移植直後~ビエ1葉期 但し、移植後30日まで	小包装(パック) 10個(300g)/10a	1回	水口施用 又は 水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる。	2回以内

4 3. 登録番号 23837 : イネショット1キロ粒剤  
(プロモブチド9.0%・ペントキサゾン2.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プロモブチドを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ シスイ コウキヤガラ	移植直後~ ビエ1葉期 ただし、 移植後 30日まで	1kg/10a	1回	湛水散布 又は 無人ヘリコプターに よる散布	2回以内	2回以内
		移植時			田植同時散布機 で施用		

4 4. 登録番号 23878 : ゼータハンマーフロアブル

(プロピリスルフロン 1.7%・ペントキサゾン 3.9%水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ウリカリ オモダカ クログワイ コウキカガラ シズイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 3 日 ~ビエ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴下	2 回以内	2 回以内
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカリ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期~ ビエ 3 葉期 ただし、収穫 90 日前まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布 又は無人航空機による滴下	2 回以内	2 回以内

45. 登録番号 23879：ゼータハンマージャンボ

(プロピリスルフロン 4.5%・ペントキサゾン 10.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ウリカ オモダカ クログワイ コウキヤガラ シズイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日 ~ビエ3葉期 ただし、 移植後 30日まで	小包装(パック) 10個(200g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	2回以内	2回以内
直播水稲	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲1葉期~ ビエ3葉期 ただし、 収穫90日 前まで	小包装(パック) 10個(200g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	2回以内	2回以内

4 6 . 登録番号 23995 : SDSイザナギフロアブル、

登録番号 23996 : イザナギフロアブル

(トリアフェモン 0.94 % ・ ベンゾビシクロン 3.8 % ・ ペントキサゾン 5.7 %水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稲	一年生 及び 多年生雑草	移植時	500 mL/10 a	1 回	田植同時散布機で施用
		移植直後~ヒエ3.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで			原液湛水散布、水口施用又は無人 航空機による滴下
直播 水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ハラオモダカ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲 1.5 葉期~ヒエ3.5 葉期 ただし、 収穫 90 日前まで			原液湛水散布 又は無人航空機による滴下

トリアフェモンを含む農薬の 総使用回数	ベンゾビシクロンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	3 回以内	2 回以内

47. 登録番号 24228 : ゼータタイガー 300FG、

登録番号 24229 : ドラゴンホーク Z300FG

(プロピリスルフロン 3.0%・ブロモブチド 30.0%・ペントキサゾン 6.67%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草 エゾノヤブカゲサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 3 日~ルビエ 3 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	300 g/10 a	1 回	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲 1 葉期~ルビエ 3 葉期 ただし、 収穫 90 日前まで	300 g/10 a	1 回	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布

プロピリスルフロンを含む農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

48. 登録番号 24336 : SDSイザナギ1キロ粒剤、

登録番号 24337 : イザナギ1キロ粒剤

(トリアファモン0.50%・ベンゾビシクロン2.0%・ペントキサゾン2.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生及び多年生雑草	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用
		移植直後~ルビエ3葉期 ただし、移植後30日まで			湛水散布 又は 無人航空機による散布
一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	稲1.5葉期~ルビエ3葉期 ただし、収穫90日前まで				

トリアファモンを含む農薬の総使用回数	ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
2回以内	3回以内	2回以内

49. 登録番号 24357 : ショキニー1キロ粒剤

(プロモブチド9.0%・ペントキサゾン2.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プロモブチドを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、クログワイ、シズイ、コウキヤガラ	移植直後~ルビエ1葉期 ただし、移植後30日まで	1 kg/10 a	1 回	湛水散布 又は 無人航空機による散布	2回以内	2回以内
		移植時			田植同時散布機で施用		

50. 登録番号 24376 : トップガンR 1キログラム剤

(ピリミノバックメチル 0.45%・ブロモブチド 9.0%・ベンスルフロンメチル 0.75%・ペントキサゾン 2.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ シズイ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用
		移植直後~ヒエ3葉期 但し、移植後 30 日まで			湛水散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ	稲1葉期~ヒエ3葉期 但し、収穫 90 日前まで			

ピリミノバックメチルを含む農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

5 1. 登録番号 24377：トップガンR豆つぶ250

(ピリミノバックメチル 1.8%・ブロモブチド 36.0%・ベンスルフロンメチル 3.0%・ペントキサゾン 8.0%剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ クログワイ シズイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植直後～ルビエ2.5葉期 但し、移植後30日 まで	250 g/10 a	1回	湛水散布、湛水周縁散布 または 無人航空機による散布
	直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ			

ピリミノバックメチルを含む 農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

5 2. 登録番号 24378 : トップガンRジャンボ

(ピリミノバックメチル 1.8 % ・ ブロモブチド 36.0 % ・ ベンスルフロンメチル 3.0 % ・ ペントキサゾン 8.0 % 剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ クログワイ シズイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植直後～ヒエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	小包装(パック) 10個(250g)/10a	1回	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。
	直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ			

ピリミノバックメチルを含む 農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

53. 登録番号 24379：トップガンRフロアブル

(ピリミノバックメチル 0.83%・ブロモブチド 17.0%・ベンスルフロンメチル 1.3%・ペントキサゾン 2.8%水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラモダカ ヒルムシ セリ	移植時	500 mL/10 a	1回	田植同時散布機で施用
	クログワイ モダカ シズイ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ルビエ3葉期 但し、移植後30日まで			原液湛水散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ	稲1.5葉期～ルビエ3葉期 但し、収穫90日前まで			

ピリミノバックメチルを含む 農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

5 4. 登録番号 24469 : ゼータジャガーフロアブル

(フェンキノトリオン 5.7%・プロピリスルフロン 1.7%・ペントキサゾン 3.8%水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ウリカワ エゾノササカグサ オモダカ クログワイ コウキヤガラ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 3 日～ヒエ 4 葉期 ただし、移植後 30 日まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布または無人航空機による滴下
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲 1 葉期～ヒエ 4 葉期 ただし、収穫 90 日前まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布または無人航空機による滴下

フェンキノトリオンを含む農薬の 総使用回数	プロピリスルフロンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

55. 登録番号 24470：ゼータジャガー 1 キロ粒剤

(フェンキノトリオン 3.0%・プロピリスルフロン 0.90%・ペントキサゾン 2.0%  
粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ウリカリ エゾノササカグサ オモダカ クログワイ コウキヤガラ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用
	移植直後～ヒエ 4 葉期 ただし、移植後 30 日まで	湛水散布または無人航空機による散布			
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカリ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲 1 葉期～ヒエ 4 葉期 ただし、収穫 90 日前まで	1 kg/10 a	1 回	湛水散布または無人航空機による散布

フェンキノトリオンを含む農薬の 総使用回数	プロピリスルフロンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

56. 登録番号 24471：ゼータジャガージャンボ

(フェンキノトリオン 15.0%・プロピリスルフロン 4.5%・ペントキサゾン 10.0%  
粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラモダカ ミスガヤツリ ウリカワ エゾノササカグサ オモダカ クログワイ コウキヤガラ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後 3 日～ヒエ 4 葉期 ただし、移植後 30 日まで	小包装(パック) 10 個(200g)/10a	1 回	水田に小包装 (パック)のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 ホタルイ ミスガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	稲 1 葉期～ヒエ 4 葉期 ただし、収穫 90 日前まで	小包装(パック) 10 個(200g)/10a	1 回	水田に小包装 (パック)のまま投げ入れる。

フェンキノトリオンを含む農薬の 総使用回数	プロピリスルフロンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

57. 登録番号 24477：流星フロアブル

(フェンキノトリオン 6.0%・ペントキサゾン 5.0%・メタゾスルフロン 2.0%水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラオダカ ヒルムシロ セリ オダカ クログライ コウキヤガラ	移植後3日~ヒエ3葉期 ただし、移植後30日まで	500 mL/10 a	1回	原液湛水散布又は 無人航空機による滴下
	直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ マツバイ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ			

フェンキノトリオンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の 総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

58. 登録番号 24478：流星 1 キロ粒剤

(フェンキノトリオン 3.0%・ペントキサゾン 2.5%・メタゾスルフロン 1.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稻	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ルビエ3葉期 ただし、移植後 30 日まで			湛水散布 又は 無人航空機による散布
直播 水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期～ルビエ3葉期 ただし、収穫 90 日前まで			

フェンキノトリオンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

59. 登録番号 24479 : 流星ジャンボ

(フェンキノトリオン 7.5 % ・ ペントキサゾン 6.25 % ・ メタゾスルフロン 2.5 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草	移植後 3 日~ヒ <sup>レ</sup> エ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで	小包装(パ <sup>ッ</sup> ク) 10 個(400 g)/10 a	1 回	水田に 小包装(パ <sup>ッ</sup> ク)の まま投げ入れる
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期~ヒ <sup>レ</sup> エ 3 葉期 ただし、収穫 90 日前まで			

フェンキノトリオンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

60. 登録番号 24480 : 流星エアー粒剤

(フェンキノトリオン 7.5%・ペントキサゾン 6.25%・メタゾスルフロン 2.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草	移植後 3 日~ヒエ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで	400 g/10 a	1 回	湛水散布、 湛水周縁散布 又は 無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期~ヒエ 3 葉期 ただし、収穫 90 日前まで			

フェンキノトリオンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

61. 登録番号 24610 : SDSイザナギジャンボSD、

登録番号 24611 : イザナギジャンボSD

(トリアファモン 2.5%・ベンゾビシクロン 10.0%・ペントキサゾン 15.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラオモダカ ヒルムシロ セリ	移植直後~ヒエ 3.5 葉期 ただし、移植後 30 日まで	小包装(パック) 10 個(200 g)/10 a	1 回	水田に小包装(パック)のまま 投げ入れる。

トリアファモンを含む農薬の 総使用回数	ベンゾビシクロンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	3 回以内	2 回以内

6 2. 登録番号 24612 : SDSイザナギ200SD粒剤、  
 登録番号 24613 : イザナギ200SD粒剤  
 (トリアファモン 2.5%・ベンゾビシクロン 10.0%・ペントキサゾン 15.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミズガヤツリ ハラオモダカ ヒルムシロ セリ	移植直後~ノビエ 3.5 葉期 ただし、移植後 30 日まで	200 g/10 a	1 回	湛水散布 又は 無人航空機による散布

トリアファモンを含む農薬の 総使用回数	ベンゾビシクロンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数
2 回以内	3 回以内	2 回以内

6 3. 登録番号 24630 : イネヒーローエアー粒剤  
 (ダイムロン 25.0%・ペントキサゾン 7.5%・メタゾスルフロン 2.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草 アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植直後~ノビエ 3 葉期 但し、移植後 30 日まで	400 g/10 a	1 回	湛水散布、 湛水周縁散布 又は 無人航空機による散布

ダイムロンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の 総使用回数
3 回以内(育苗箱散布は 1 回以内、本田では 2 回以内)	2 回以内	2 回以内

64. 登録番号 ー : イネブレイブ1キロ粒剤

(ジメタメトリン 0.6%・ペントキサゾン 3.0%・メタゾスルフロン 0.8%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ウリカ クログワイ ヒルムシ セリ アオミドロ・藻類による 表層剥離	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用
	移植直後~ヒェ3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は 無人航空機による散布			

ジメタメトリンを含む農薬の 総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の 総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の 総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

別添 2：暴露量の推計（ペントキサゾンを含む製剤）

目次	頁
1. 登録番号19845：ベクサーフロアブル、 登録番号22865：ベアスフロアブル (ペントキサゾン2.9%水和剤)	5
2. 登録番号19847：ベクサー1キロ粒剤、 登録番号22866：ベアス1キロ粒剤 (ペントキサゾン1.5%粒剤)	6
3. 登録番号19848：テマカットフロアブル、 登録番号19849：SDSテマカットフロアブル (ダイムロン28.0%・ペントキサゾン7.2%水和剤)	7
4. 登録番号19853：日産草笛フロアブル、 登録番号21116：草笛フロアブル、 登録番号21621：協友草笛フロアブル (クミルロン27.4%・ペントキサゾン8.2%水和剤)	8
5. 登録番号19854：科研草笛ジャンボ、 登録番号21115：草笛ジャンボ、 登録番号21620：協友草笛ジャンボ (クミルロン15.0%・ペントキサゾン4.5%剤)	9
6. 登録番号19869：ユートピア粒剤15 (シクロスルファミロン0.20%・ペントキサゾン1.5%粒剤)	10
7. 登録番号19872：ショキニーフロアブル (プロモブチド18.0%・ペントキサゾン4.0%水和剤)	11
8. 登録番号20156：ユートピア1キロ粒剤 (シクロスルファミロン0.60%・ペントキサゾン4.5%粒剤)	12
9. 登録番号20491：トップガンフロアブル、 登録番号24379：トップガンRフロアブル (ピリミノバックメチル0.83%・プロモブチド17.0%・ ベンスルフロロンメチル1.3%・ペントキサゾン2.8%水和剤)	13
10. 登録番号20493：トップガンLフロアブル (ピリミノバックメチル0.56%・プロモブチド17.0%・ ベンスルフロロンメチル0.93%・ペントキサゾン2.8%水和剤)	14
11. 登録番号20634：フォーカスショットジャンボ、 登録番号21105：科研フォーカスショットジャンボ (ベンゾビスシクロン4.0%・ペントキサゾン4.0%粒剤)	15
12. 登録番号20822：クミアイサキドリEW、 登録番号22742：シンウチEW、 登録番号23099：イネゼットEW (ブタクロール12.0%・ペントキサゾン4.0%乳剤)	16
13. 登録番号20993：ショキニー250グラム (プロモブチド24.0%・ペントキサゾン6.0%剤)	17
14. 登録番号21155：トップガン250グラム、 登録番号24377：トップガンR豆つぶ250 (ピリミノバックメチル1.8%・プロモブチド36.0%・ ベンスルフロロンメチル3.0%・ペントキサゾン8.0%剤)	18
15. 登録番号21165：SDSダッシュワンフロアブル、 登録番号21166：ホクコーダッシュワンフロアブル (ダイムロン22.9%・ペントキサゾン3.8%水和剤)	19

16. 登録番号21167: トップガンL 250グラム (ピリミノバックメチル1.8%・ブロモブチド36.0%・ ベンスルフロロンメチル2.0%・ペントキサゾン8.0%剤)	.....	20
17. 登録番号21208: プレッサフロアブル、 登録番号21209: SDSプレッサフロアブル (ベンゾビシクロン3.9%・ペントキサゾン3.9%水和剤)	.....	21
18. 登録番号21375: トップガンGT1キロ粒剤75、 登録番号24376: トップガンR1キロ粒剤 (ピリミノバックメチル0.45%・ブロモブチド9.0%・ ベンスルフロロンメチル0.75%・ペントキサゾン2.0%粒剤)	.....	22
19. 登録番号21378: トップガンGT1キロ粒剤51 (ピリミノバックメチル0.45%・ブロモブチド9.0%・ ベンスルフロロンメチル0.51%・ペントキサゾン2.0%粒剤)	.....	23
20. 登録番号21381: トップガンジャンボ (ピリミノバックメチル1.8%・ブロモブチド36.0%・ ベンスルフロロンメチル3.0%・ペントキサゾン8.0%剤)	.....	24
21. 登録番号21384: トップガンLジャンボ (ピリミノバックメチル1.8%・ブロモブチド36.0%・ ベンスルフロロンメチル2.0%・ペントキサゾン8.0%剤)	.....	25
22. 登録番号21403: クミアイサキドリ1キロ粒剤、 登録番号22743: シンウチ1キロ粒剤 (ブタクロール5.0%・ペントキサゾン1.5%粒剤)	.....	26
23. 登録番号21829: ヨシキタ1キロ粒剤 (イマズスルフロロン0.90%・ブロモブチド9.0%・ペントキサゾン3.9%粒剤)	.....	27
24. 登録番号21831: ヨシキタフロアブル (イマズスルフロロン1.7%・ブロモブチド16.3%・ペントキサゾン7.0%水和剤)	.....	28
25. 登録番号22309: ヨシキタジャンボ (イマズスルフロロン2.25%・ブロモブチド22.5%・ペントキサゾン9.75%粒剤)	.....	29
26. 登録番号22322: サインヨシフロアブル (ペントキサゾン8.6%水和剤)	.....	30
27. 登録番号22420: MICスウィープフロアブル (ピラゾレート20.0%・ペントキサゾン4.0%水和剤)	.....	31
28. 登録番号22655: クリアホープフロアブル、 登録番号22656: 兼商クリアホープフロアブル (ペントキサゾン4.0%・ACN18.0%水和剤)	.....	32
29. 登録番号22846: 半蔵1キロ粒剤 (シクロスルファミロン0.50%・ベンゾビシクロン2.0%・ ペントキサゾン3.9%粒剤)	.....	33
30. 登録番号23008: ホクコーメテオ1キロ粒剤 (ペントキサゾン2.5%粒剤)	.....	34
31. 登録番号23009: ホクコーメテオフロアブル (ペントキサゾン5.0%水和剤)	.....	35
32. 登録番号23225: イネヒーロー1キロ粒剤、 登録番号23226: 日産イネヒーロー1キロ粒剤 (ダイムロン10.0%・ペントキサゾン3.0%・メタゾスルフロロン1.0%粒剤)	.....	36
33. 登録番号23525: イネヒーロージャンボ、 登録番号23526: 日産イネヒーロージャンボ (ダイムロン25.0%・ペントキサゾン7.5%・メタゾスルフロロン2.5%粒剤)	.....	37
34. 登録番号23572: ゲキテツ1キロ粒剤 (ピラゾスルフロロンエチル0.30%・ベンチオカーブ21.0%・ ペントキサゾン4.0%粒剤)	.....	38
35. 登録番号23582: テマエース1キロ粒剤 (イマズスルフロロン0.90%・ダイムロン15.0%・ペントキサゾン3.9%粒剤)	.....	39
36. 登録番号23583: テマエースフロアブル (イマズスルフロロン1.7%・ダイムロン28.0%・ペントキサゾン7.3%水和剤)	.....	40

37. 登録番号23735：ゼータタイガーフロアブル、 登録番号23873：ドラゴンホークZフロアブル、 登録番号24244：ニマイメZフロアブル (プロピリスルフロロン1.7%・ブロモブチド16.8%・ペントキサゾン3.7%水和剤)	.....	41
38. 登録番号23747：ゼータハンマー1キロ粒剤 (プロピリスルフロロン0.90%・ペントキサゾン2.0%粒剤)	.....	42
39. 登録番号23748：ゼータタイガー1キロ粒剤、 登録番号23875：ドラゴンホークZ1キロ粒剤、 登録番号24245：ニマイメZ1キロ粒剤 (プロピリスルフロロン0.90%・ブロモブチド9.0%・ペントキサゾン2.0%粒剤)	.....	43
40. 登録番号23749：ゼータタイゲージャンボ、 登録番号23877：ドラゴンホークZジャンボ、 登録番号24246：ニマイメZジャンボ (プロピリスルフロロン3.0%・ブロモブチド30.0%・ペントキサゾン6.67%粒剤)	.....	44
41. 登録番号23753：イネヒーローフロアブル (ダイムロン19.0%・ペントキサゾン5.7%・メタゾスルフロロン1.9%水和剤)	.....	45
42. 登録番号23822：ホクコーメテオジャンボ (ペントキサゾン8.3%粒剤)	.....	46
43. 登録番号23837：イネショット1キロ粒剤、 登録番号24357：ショキニー1キロ粒剤 (ブロモブチド9.0%・ペントキサゾン2.0%粒剤)	.....	47
44. 登録番号23878：ゼータハンマーフロアブル (プロピリスルフロロン1.7%・ペントキサゾン3.9%水和剤)	.....	48
45. 登録番号23879：ゼータハンマージャンボ (プロピリスルフロロン4.5%・ペントキサゾン10.0%粒剤)	.....	49
46. 登録番号23995：SDSイザナギフロアブル、 登録番号23996：イザナギフロアブル (トリアファモン0.94%・ベンゾビシクロン3.8%・ペントキサゾン5.7%水和剤)	.....	50
47. 登録番号24228：ゼータタイガー300FG、 登録番号24229：ドラゴンホークZ300FG (プロピリスルフロロン3.0%・ブロモブチド30.0%・ペントキサゾン6.67%粒剤)	.....	51
48. 登録番号24336：SDSイザナギ1キロ粒剤、 登録番号24337：イザナギ1キロ粒剤 (トリアファモン0.50%・ベンゾビシクロン2.0%・ペントキサゾン2.5%粒剤)	.....	52
49. 登録番号24378：トップガンRジャンボ (ピリミノバックメチル1.8%・ブロモブチド36.0%・ベンスルフロロンメチル3.0%・ ペントキサゾン8.0%剤)	.....	53
50. 登録番号24469：ゼータジャガーフロアブル (フェンキノトリオン5.7%・プロピリスルフロロン1.7%・ ペントキサゾン3.8%水和剤)	.....	54
51. 登録番号24470：ゼータジャガー1キロ粒剤 (フェンキノトリオン3.0%・プロピリスルフロロン0.90%・ ペントキサゾン2.0%粒剤)	.....	55
52. 登録番号24471：ゼータジャゲージャンボ (フェンキノトリオン15.0%・プロピリスルフロロン4.5%・ ペントキサゾン10.0%粒剤)	.....	56
53. 登録番号24477：流星フロアブル (フェンキノトリオン6.0%・ペントキサゾン5.0%・ メタゾスルフロロン2.0%水和剤)	.....	57
54. 登録番号24478：流星1キロ粒剤 (フェンキノトリオン3.0%・ペントキサゾン2.5%・メタゾスルフロロン1.0%粒剤)	.....	58
55. 登録番号24479：流星ジャンボ (フェンキノトリオン7.5%・ペントキサゾン6.25%・メタゾスルフロロン2.5%粒剤)	.....	59
56. 登録番号24480：流星エアー粒剤 (フェンキノトリオン7.5%・ペントキサゾン6.25%・メタゾスルフロロン2.5%粒剤)	.....	60

57. 登録番号24610：SDSイザナギジャンボSD、 登録番号24611：イザナギジャンボSD (トリアファモン2.5%・ベンゾビシクロン10.0%・ペントキサゾン15.0%粒剤)	.....	61
58. 登録番号24612：SDSイザナギ200SD粒剤、 登録番号24613：イザナギ200SD粒剤 (トリアファモン2.5%・ベンゾビシクロン10.0%・ペントキサゾン15.0%粒剤)	.....	62
59. 登録番号24630：イネヒーローエアー粒剤 (ダイムロン25.0%・ペントキサゾン7.5%・メタゾスルフロン2.5%粒剤)	.....	63
60. 登録番号ー：イネブレイブ1キロ粒剤 (ジメタメトリン0.6%・ペントキサゾン3.0%・メタゾスルフロン0.8%粒剤)	.....	64

\*：本資料は、製剤のハザード区分に応じた防護装備も考慮して作成した。

1. 登録番号19845：ベクサーフロアブル、登録番号22865：ベアスフロアブル（ペントキサゾン2.9%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	19845
	種類・名称	ペントキサゾン水和剤（ベクサーフロアブル）（除草剤）
② 評価対象有効成分		ペントキサゾン
③-1 AOEL		0.23 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2.9 %
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）		製剤：液体／散布時：液体
⑥ 調製時の予測式		-

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時：農薬用マスク、不浸透性防除衣		
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代後～移植前7日または移植直後～ヒエ発生始期ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時：農薬用マスク、不浸透性防除衣		
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代後～移植前7日または移植直後～ヒエ発生始期ただし、移植後30日まで/水口施用/2回	1	-	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時：農薬用マスク、不浸透性防除衣		
4	ひえ（水田移植栽培）	500 mL, 0.5 L/10a/植代後～移植前7日または移植直後～ヒエ発生始期ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時：農薬用マスク、不浸透性防除衣		
5	いぐさ	500 mL, 0.5 L/10a/植付後～生育期（雑草発生前）/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時：農薬用マスク、不浸透性防除衣		

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$  体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg 体重/日)  $\times$  100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$  体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg 体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2. 登録番号19847：ベクサー1キロ粒剤、登録番号22866：ペアス1キロ粒剤（ペントキサゾン1.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	19847
	種類・名称	ペントキサゾン粒剤(ベクサー1キロ粒剤)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)		2)
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1 kg/10a/植代後～移植前7日または移植直後～発生始期 ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤(粒剤)_水 稲(手散布)						1.5	10.1	0.7	-	
3	いぐさ	1 kg/10a/植付後～生育期(雑草発生前)/湛水散布/2回	1	固形剤(粒剤)_水 稲(手散布)						0.7	1.5	0.3	-	

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3. 登録番号19848：テマカットフロアブル、登録番号19849：SDSテマカットフロアブル（ダイムロン28.0%・ペントキサゾン7.2%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	19848
	種類・名称	ダイムロン・ペントキサゾン水和剤(テマカットフロアブル)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	7.2 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代後～移植前7日または移植後直後～ ヒェ1葉期ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代後～移植前7日または移植後直後～ ヒェ1葉期ただし、移植後30日まで/水口施用/2回	1	—	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
4	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代時(移植7日前まで)/植代時に原液の まま散布し混和する/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
5	直播水稻	300 mL, 0.3 L/10a/湛水直播の代かき時(は種7日前まで)/代 かき時に原液のまま散布し混和する/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
6	直播水稻	300 mL, 0.3 L/10a/湛水直播の代かき後～は種前7日/原液湛 水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4. 登録番号19853：日産草笛フロアブル、登録番号21116：草笛フロアブル、登録番号21621：協友草笛フロアブル（クミロン27.4%・ペントキサゾン8.2%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	19853
	種類・名称	クミロン・ペントキサゾン水和剤(日産草笛フロアブル)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	8.2 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代時(移植前7日まで)/植代時に原液のまま散布し混和する。/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代後～移植前7日又は移植直後～ <sup>1)</sup> 1葉期 但し、移植後30日まで/原液澁水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
4	移植水稻	300 mL, 0.3 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
5	移植水稻	300 mL, 0.3 L/10a/植代後～移植前7日又は移植直後～ <sup>1)</sup> 1葉期 但し、移植後30日まで/原液澁水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5. 登録番号19854：科研草笛ジャンボ、登録番号21115：草笛ジャンボ、登録番号21620：協友草笛ジャンボ（クミルロン15.0%・ペントキサゾン4.5%剤）

① 製剤情報	登録番号	21115
	種類・名称	クミルロン・ペントキサゾン剤(草笛ジャンボ)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	4.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL (1)	%AAOEL (2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	10個(500g)/10a/植代後～移植前7日又は移植直後～ $\text{H}_{21}$ 葉期 但し、移植後30日まで/水田に投げ入れる。/2回	1	—	本剤は包装から取り出した錠形の製剤を水田に投げ入れて使用する製剤であり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	20個(1kg)/10a/植代後～移植前7日又は移植直後～ $\text{H}_{21}$ 葉期 但し、移植後30日まで/水田に投げ入れる。/2回	1	—	本剤は包装から取り出した錠形の製剤を水田に投げ入れて使用する製剤であり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	移植水稻	5個(250g)/10a/植代後～移植前7日又は移植直後～ $\text{H}_{21}$ 発生始 期 但し、移植後30日まで/水田に投げ入れる。/2回	1	—	本剤は包装から取り出した錠形の製剤を水田に投げ入れて使用する製剤であり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL (mg/kg体重/日) × 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL (mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

6. 登録番号19869：エートピア粒剤15（シクロスルファミロン0.20%・ペントキサゾン1.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	19869
	種類・名称	シクロスルファミロン・ペントキサゾン粒剤(エートピア粒剤15)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL	%AAOEL		
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)		2)
1	移植水稻	3 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	3 kg/10a/移植直後～1.5葉期ただし、移植後30日まで/灌水散布/2回	1	固形剤(粒剤) - 水稻(手散布)						4.6	30.2	2	-	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

7. 登録番号19872：シヨキニーフロアブル（プロモプチド18.0%・ペントキサゾン4.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	19872
	種類・名称	プロモプチド・ペントキサゾン水和剤(シヨキニーフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	4 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植直後〜 $\text{ヒ}^{\circ}\text{E}$ 1葉期 但し、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植直後〜 $\text{ヒ}^{\circ}\text{E}$ 1葉期 但し、移植後30日まで/水口施用/2回	1	-	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
4	移植水稻	300 mL, 0.3 L/10a/移植直後〜 $\text{ヒ}^{\circ}\text{E}$ 1葉期 但し、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL (mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL (mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

8. 登録番号20156：ユートピア1キロ粒剤（シクロスルファミロン0.60%・ペントキサゾン4.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	20156
	種類・名称	シクロスルファミロン・ペントキサゾン粒剤（ユートピア1キロ粒剤）（除草剤）
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	4.5 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤：固体／散布時：固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)		2)
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後～ヒト1.5葉期ただし、移植後30日まで/灌水散布/2回	1	固形剤（粒剤）_水稻（手散布）						4.6	30.2	2	-	

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

9. 登録番号20491：トップガンフロアブル、登録番号24379：トップガンRフロアブル（ピリミノバックメチル0.83%・プロモプチド17.0%・ベンスルフロンメチル1.3%・ペントキサゾン2.8%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	20491
	種類・名称	ピリミノバックメチル・プロモプチド・ベンスルフロンメチル・ペントキサゾン水和剤(トップガンフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	2.8 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/ 散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植直後〜ヒエ3葉期 但し、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	直播水稻	500 mL, 0.5 L/10a/稲1.5葉期〜ヒエ3葉期 但し、収穫90日前まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

10. 登録番号20493：トップガンLフロアブル（ピリミノバックメチル0.56%・プロモプチド17.0%・ベンスルフロンメチル0.93%・ペントキサゾン2.8%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	20493
	種類・名称	ピリミノバックメチル・プロモプチド・ベンスルフロンメチル・ペントキサゾン水和剤(トップガンLフロアブル)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	2.8 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/ 散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植直後～ $\text{L}^2$ 3葉期 但し、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	直播水稻	500 mL, 0.5 L/10a/稲1葉期～ $\text{L}^2$ 3葉期 但し、収穫90日前まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1.1. 登録番号20634：フォーカスショットジャンボ、登録番号21105：科研フォーカスショットジャンボ（ベンゾピシクロン4.0%・ペントキサゾン4.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	20634
	種類・名称	ベンゾピシクロン・ペントキサゾン粒剤（フォーカスショットジャンボ）（除草剤）
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	4 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	小包装(パック)10個(500g)/10a/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/移植直後～ヒエ1.5葉期ただし、移植後30日まで/2回	1	—	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL (mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL (mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 2. 登録番号20822：クミアイサキドリEW、登録番号22742：シンウチEW、登録番号23099：イネゼットEW（ブタクロール12.0%・ペントキサゾン4.0%乳剤）

① 製剤情報	登録番号	22742
	種類・名称	ブタクロール・ペントキサゾン乳剤(シンウチEW) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	4 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/ 散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL (1)	%AAOEL (2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/ 植代後～移植前7日または移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/ 2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/ 移植時/ 田植同時散布機で施用/ 2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/ 植代時(移植7日前まで)/ 植代時に原液のまま散布し混和する/ 2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
4	直播水稻	300 mL, 0.3 L/10a/ 湛水直播の代かき時(は種7日前まで)/ 代かき時に原液のまま散布し混和する/ 2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
5	直播水稻	300 mL, 0.3 L/10a/ 湛水直播の代かき後～は種前7日/原液湛水散布/ 2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

13. 登録番号20993：シヨキニー250グラム（プロモブチド24.0%・ペントキサゾン6.0%剤）

① 製剤情報	登録番号	20993
	種類・名称	プロモブチド・ペントキサゾン剤(シヨキニー250グラム)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	6 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)			
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	
1	移植水稻	0.25 kg/10a/移植直後～1葉期 但し、移植後30日まで/湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人ヘリコプターによる散布/2回	1	固形剤(粒剤) - 水稻(手散布)							1.5	10.1	0.7	-	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1.4. 登録番号21155：トップガン250グラム、登録番号24377：トップガンR豆つぶ250（ピリミノバックメチル1.8%・プロモプチド36.0%・ベンスルフロメチル3.0%・ペントキサゾン8.0%剤）

① 製剤情報	登録番号	21155
	種類・名称	ピリミノバックメチル・プロモプチド・ベンスルフロメチル・ペントキサゾン剤(トップガン250グラム) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	8 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体 / 散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	0.25 kg/10a/移植直後～収穫2.5葉期 但し、移植後30日まで/湛水散布、湛水周縁散布又は無人ヘリコプターによる散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						2.1	13.4	0.9	-	
2	直播水稻	0.25 kg/10a/稲1葉期～収穫2.5葉期 但し、収穫90日前まで/湛水散布、湛水周縁散布又は無人ヘリコプターによる散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						2.1	13.4	0.9	-	

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL (mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL (mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

15. 登録番号21165：SDSダッシュワンフロアブル、登録番号21166：ホクコーダッシュワンフロアブル（ダイムロン22.9%・ペントキサゾン3.8%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21166
	種類・名称	ダイムロン・ペントキサゾン水和剤(ホクコーダッシュワンフロアブル)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	3.8 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/ 植代時(移植7日前まで)/ 植代時に原液のまま散布し混和する/ 2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/ 移植時/ 田植同時散布機で施用/ 2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/ 植代後～移植前7日又は移植直後～ <sup>1)</sup> 1葉期但し、移植後30日まで/ 原液湛水散布/ 2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL (mg/kg体重/日) × 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL (mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

16. 登録番号21167：トップガンL250グラム（ピリミノバックメチル1.8%・プロモプロチド36.0%・ペンシルフロンメチル2.0%・ペントキサゾン8.0%剤）

① 製剤情報	登録番号	21167
	種類・名称	ピリミノバックメチル・プロモプロチド・ペンシルフロンメチル・ペントキサゾン剤(トップガンL250グラム) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	8 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体 / 散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	0.25 kg/10a/移植直後～収穫2.5葉期 但し、移植後30日まで/湛水散布、湛水周縁散布又は無人ヘリコプターによる散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						2.1	13.4	0.9	-	
2	直播水稻	0.25 kg/10a/稲1葉期～収穫2.5葉期 但し、収穫90日前まで/湛水散布、湛水周縁散布又は無人ヘリコプターによる散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						2.1	13.4	0.9	-	

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL (mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL (mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1.7. 登録番号21208：プレッサフロアブル、登録番号21209：SDSプレッサフロアブル（ベンゾピシクロン3.9%・ペントキサゾン3.9%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21208
	種類・名称	ベンゾピシクロン・ペントキサゾン水和剤(プレッサフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	3.9 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL (1)	%AAOEL (2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植直後～ $\pm$ 1.5葉期 ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

18. 登録番号21375：トップガンGT1キロ粒剤75、登録番号24376：トップガンR1キロ粒剤（ピリミノバックメチル0.45%・プロモプチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.75%・ペントキサゾン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	21375
	種類・名称	ピリミノバックメチル・プロモプチド・ベンスルフロンメチル・ペントキサゾン粒剤(トップガンGT1キロ粒剤75)(除草剤)
② 評価対象有効成分		ペントキサゾン
③-1 AOEL		0.23 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2%
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)		製剤: 固体/ 散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後〜ヒエ3葉期 但し、移植後30日まで/灌水散布/2回	1	固形剤(粒剤) 水稻(手散布)						2.1	13.4	0.9	-	
3	直播水稻	1 kg/10a/稲1葉期〜ヒエ3葉期 但し、収穫90日前まで/灌水散布/2回	1	固形剤(粒剤) 水稻(手散布)						2.1	13.4	0.9	-	

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

19. 登録番号21378：トップガンGT1キロ粒剤51（ピリミノバックメチル0.45%・プロモプチド9.0%・ペンシルフロンメチル0.51%・ペントキサゾン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	21378
	種類・名称	ピリミノバックメチル・プロモプチド・ペンシルフロンメチル・ペントキサゾン粒剤(トップガンGT1キロ粒剤51)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	2 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/ 散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後〜 <sup>1)</sup> 3葉期 但し、移植後30日まで/灌水散布/2回	1	固形剤(粒剤)_水稻(手散布)						2.1	13.4	0.9	-	
3	直播水稻	1 kg/10a/稲1葉期〜 <sup>1)</sup> 3葉期 但し、収穫90日前まで/灌水散布/2回	1	固形剤(粒剤)_水稻(手散布)						2.1	13.4	0.9	-	

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

20. 登録番号21381：トップガンジャンボ（ピリミノバックメチル1.8%・プロモプチド36.0%・ベンスルフロンメチル3.0%・ペントキサゾン8.0%剤）

① 製剤情報	登録番号	21381
	種類・名称	ピリミノバックメチル・プロモプチド・ベンスルフロンメチル・ペントキサゾン剤（トップガンジャンボ）（除草剤）
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	8 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤: 固体 / 散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	小包装(パック)10個(250g)/10a / 移植後3日～ヒエ2.5葉期 但し、移植後30日まで / 水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL (mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL (mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2 1. 登録番号21384：トップガンLジャンボ（ピリミノバックメチル1.8%・プロモプチド36.0%・ベンスルフロメチル2.0%・ペントキサゾン8.0%剤）

① 製剤情報	登録番号	21384
	種類・名称	ピリミノバックメチル・プロモプチド・ベンスルフロメチル・ペントキサゾン剤(トップガンLジャンボ)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	8 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/ 散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	小包装(パック)10個(250g)/10a/移植後3日～ヒエ2.5葉期 但し、移植後30日まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性バック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								
2	直播水稻	小包装(パック)10個(250g)/10a/稲1葉期～ヒエ2.5葉期 但し、収穫90日前まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性バック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2.2. 登録番号21403：クマイサキドリ 1 キロ粒剤、登録番号22743：シンウチ 1 キロ粒剤（ブタクロール5.0%・ペントキサゾン1.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22743
	種類・名称	ブタクロール・ペントキサゾン粒剤(シンウチ1キロ粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	1 kg/10a/植代後～移植前7日または移植直後～ <sup>1)</sup> 1葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稲(手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.2	1.1	0.1	-	
2	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣	

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

23. 登録番号21829：ヨシキタ1キロ粒剤（イマズスルフロン0.90%・プロモプチド9.0%・ペントキサゾン3.9%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	21829
	種類・名称	イマズスルフロン・プロモプチド・ペントキサゾン粒剤 (ヨシキタ1キロ粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	3.9 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)		2)
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後～1.5葉期ただし、移植後30日まで/灌水散布/2回	1	固形剤(粒剤) - 水稻(手散布)						4	26.2	1.7	-	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2.4. 登録番号21831：ヨシキタフロアブル（イマズスルフロン1.7%・プロモプチド16.3%・ペントキサゾン7.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21831
	種類・名称	イマズスルフロン・プロモプチド・ペントキサゾン水和剤(ヨシキタフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	7 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植直後～ヒト1.5葉期 ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

25. 登録番号22309：ヨシキタジャンボ（イマズスルフロン2.25%・プロモプロチド22.5%・ペントキサゾン9.75%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22309
	種類・名称	イマズスルフロン・プロモプロチド・ペントキサゾン粒剤 (ヨシキタジャンボ) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	9.75 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	小包装(パック)10個(400g)/10a/移植直後～ヒエ1.5葉期ただし、移植後30日まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	-	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2.6. 登録番号22322：サインヨシフロアブル（ペントキサゾン8.6%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	22322
	種類・名称	ペントキサゾン水和剤(サインヨシフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	8.6 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代時(移植7日前まで)/植代時に原液のまま散布し混和する/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代後～移植前7日又は移植直後～ノビエ1葉期ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
4	移植水稻	300 mL, 0.3 L/10a/移植直後～ノビエ1葉期ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL (mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL (mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

27. 登録番号22420：MICスウィープフロアブル（ピラゾレート20.0%・ペントキサゾン4.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	22420
	種類・名称	ピラゾレート・ペントキサゾン水和剤 (MICスウィープフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	4 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL (1)	%AAOEL (2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代後～移植前7日又は移植直後～収穫期 ただし、移植後30日まで/原液湛水散布又は無人ヘリコプターによる滴下/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

28. 登録番号22655：クリアホープフロアブル、登録番号22656：兼商クリアホープフロアブル（ペントキサゾン4.0%・ACN18.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	22655
	種類・名称	ペントキサゾン・ACN水和剤(クリアホープフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	4 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL (1)	%AAOEL (2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代後～移植前7日 又は 移植直後～ ビエ1葉期 ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						調製時・散布時:保護 眼鏡		
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/植代後～移植前7日 又は 移植直後～ ビエ1葉期 ただし、移植後30日まで/水口施用/2回	1	—	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時:保護 眼鏡		
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						調製時・散布時:保護 眼鏡		

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL (mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL (mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

29. 登録番号22846：半蔵1キログラム剤（シクロスルフアムロン0.50%・ペンゾピシクロン2.0%・ペントキサゾン3.9%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22846
	種類・名称	シクロスルフアムロン・ペンゾピシクロン・ペントキサゾン粒剤(半蔵1キログラム剤)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	3.9 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり							備考		
					調製時		散布時			反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)		1)	2)
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後〜ヒト1.5葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稲(手散布)						4	26.2	1.7	-	
3	直播水稻	1 kg/10a/稲1葉期〜ヒト1.5葉期ただし、収穫90日前まで/湛水散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稲(手散布)						4	26.2	1.7	-	

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL (mg/kg体重/日) × 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL (mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

30. 登録番号23008：ホクコーメテオ1キロ粒剤（ペントキサゾン2.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23008
	種類・名称	ペントキサゾン粒剤(ホクコーメテオ1キロ粒剤)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	2.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)		2)
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1 kg/10a/植代後～移植前7日又は移植直後～ <sup>1)</sup> 1葉期 但し、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤(粒剤) - 水稻(手散布)						2.6	16.8	1.1	-	

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 1. 登録番号23009：ホクコーメテオフロアブル（ペントキサゾン5.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23009
	種類・名称	ペントキサゾン水和剤(ホクコーメテオフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/ 散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/ 移植時/ 田植同時散布機で施用/ 2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/ 植代後～移植前7日又は移植直後～ <sup>1)</sup> 1葉期 但し、移植後30日まで/ 原液湛水散布/ 2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/ 植代後～移植前7日又は移植直後～ <sup>1)</sup> 1葉期 但し、移植後30日まで/ 水口施用/ 2回	1	-	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL (mg/kg体重/日) × 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL (mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 2. 登録番号23225：イネヒーロー1キログラム剤、登録番号23226：日産イネヒーロー1キログラム剤（ダイムロン10.0%・ペントキサゾン3.0%・メタゾスルフロン1.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23225
	種類・名称	ダイムロン・ペントキサゾン・メタゾスルフロン粒剤 (イネヒーロー1キログラム剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	3 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)		2)
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後〜ヒエ3葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稲(手散布)						3.1	20.1	1.3	-	
3	直播水稻	1 kg/10a/稲1.5葉期〜ヒエ3葉期ただし、収穫90日前まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稲(手散布)						3.1	20.1	1.3	-	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL (mg/kg体重/日) × 100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL (mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3.3. 登録番号23525：イネヒーロージャンボ、登録番号23526：日産イネヒーロージャンボ（ダイムロン25.0%・ペントキサゾン7.5%・メタゾスルフロン2.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23525
	種類・名称	ダイムロン・ペントキサゾン・メタゾスルフロン粒剤 (イネヒーロージャンボ) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	7.5 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	小包装(パック)10個(400g)/10a/移植直後～ピエ3葉期 ただし、移植後30日まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 4. 登録番号23572：ゲキテツ1キロ粒剤（ピラゾスルフロンエチル0.30%・ベンチオカーブ21.0%・ペントキサゾン4.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23572
	種類・名称	ピラゾスルフロンエチル・ベンチオカーブ・ペントキサゾン粒剤(ゲキテツ1キロ粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	4 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	1 kg/10a/移植直後〜 $\text{t}^{\text{e}}$ 2葉期但し、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)		不浸透性手袋				1.2	7.5	0.5	-	
2	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

35. 登録番号23582：テマエース1キロ粒剤（イマズスルフロン0.90%・ダイムロン15.0%・ペントキサゾン3.9%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23582
	種類・名称	イマズスルフロン・ダイムロン・ペントキサゾン粒剤 (テマエース1キロ粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分		ペントキサゾン
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	3.9 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)		2)
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後～ヒト1.5葉期ただし、移植後30日まで/灌水散布/2回	1	固形剤(粒剤) - 水稻(手散布)						4	26.2	1.7	-	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

36. 登録番号23583：テマエースフロアブル（イマズスルフロン1.7%・ダイムロン28.0%・ペントキサゾン7.3%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23583
	種類・名称	イマズスルフロン・ダイムロン・ペントキサゾン水和剤 (テマエースフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	7.3 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植直後～ヒト1.5葉期 ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植直後～ヒト1.5葉期 ただし、移植後30日まで/水口施用/2回	1	—	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL (mg/kg体重/日) × 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL (mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

37. 登録番号23735：ゼータタイガーフロアブル、登録番号23873：ドラゴンホークZフロアブル、登録番号24244：ニマイメZフロアブル（プロピリスルフロン1.7%・プロモプチド16.8%・ペントキサゾン3.7%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23735
	種類・名称	プロピリスルフロン・プロモプチド・ペントキサゾン水和剤(ゼータタイガーフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	3.7 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植後3日～収穫期ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植後3日～収穫期ただし、移植後30日まで/水口施用/2回	1	-	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植後3日～収穫期ただし、移植後30日まで/無人航空機による滴下/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
4	直播水稻	500 mL, 0.5 L/10a/稲1葉期～収穫期ただし、収穫90日前まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
5	直播水稻	500 mL, 0.5 L/10a/稲1葉期～収穫期ただし、収穫90日前まで/無人航空機による滴下/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL (mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL (mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

38. 登録番号23747：ゼータハンマー1キログラム剤（プロピリスルフロンの0.90%・ペントキサゾンの2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23747
	種類・名称	プロピリスルフロンのペントキサゾン粒剤（ゼータハンマー1キログラム剤）（除草剤）
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	2 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤：固体／散布時：固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								散布時：農薬用マスク、不浸透性防除衣	
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後～ヒト3葉期 ただし、移植後30日まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤（粒剤）_水稻（手散布）		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	0.2	1.4	0.1	-	
3	直播水稻	1 kg/10a/稲1葉期～ヒト3葉期 ただし、収穫90日前まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤（粒剤）_水稻（手散布）		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	0.2	1.4	0.1	-	

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

39. 登録番号23748：ゼータタイガー1キロ粒剤、登録番号23875：ドラゴンホークZ1キロ粒剤、登録番号24245：ニマイメZ1キロ粒剤（プロピリスルフロロン0.90%・プロモプチド9.0%・ペントキサゾン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23748
	種類・名称	プロピリスルフロロン・プロモプチド・ペントキサゾン粒剤(ゼータタイガー1キロ粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	2 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)		2)
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後〜 $\text{H}^{\circ}\text{E}3$ 葉期 ただし、移植後30日まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)						2.1	13.4	0.9	-	
3	直播水稻	1 kg/10a/稲1葉期〜 $\text{H}^{\circ}\text{E}3$ 葉期ただし、収穫90日前まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)						2.1	13.4	0.9	-	

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

40. 登録番号23749：ゼータタイガージャンボ、登録番号23877：ドラゴンホークZジャンボ、登録番号24246：ニマイメZジャンボ（プロピリスルフロンの3.0%・プロモプロチド30.0%・ペントキサゾン6.67%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23749
	種類・名称	プロピリスルフロンのプロモプロチド・ペントキサゾン粒剤(ゼータタイガージャンボ) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	6.67 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	小包装(パック)10個(300g)/10a/移植後3日~ヒエ3葉期 ただし、移植後30日まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	-	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								
2	直播水稻	小包装(パック)10個(300g)/10a/稲1葉期~ヒエ3葉期 ただし、収穫90日前まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	-	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 1. 登録番号23753：イネヒーローフロアブル（ダイムロン19.0%・ペントキサゾン5.7%・メタゾスルフロン1.9%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23753
	種類・名称	ダイムロン・ペントキサゾン・メタゾスルフロン水和剤 (イネヒーローフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	5.7 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植後5日~ $\text{L}^{\circ}\text{E}3$ 葉期ただし、移植後30日 日まで/原液湛水散布又は無人ヘリコプターによる滴下/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 2. 登録番号23822：ホクコーメテオジャンボ（ペントキサゾン8.3%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23822
	種類・名称	ペントキサゾン粒剤(ホクコーメテオジャンボ)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	8.3 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	小包装(パック)10個(300g)/10a/植代後～移植前7日又は移植直後～ルビ1葉期 但し、移植後30日まで/水口施用又は水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	-	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 3. 登録番号23837：イネシヨット1キロ粒剤、登録番号24357：シヨキニー1キロ粒剤（プロモブチド9.0%・ペントキサゾン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23837
	種類・名称	プロモブチド・ペントキサゾン粒剤(イネシヨット1キロ粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	2 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	1 kg/10a/移植直後～1葉期ただし、移植後30日まで/灌水散布又は無人ヘリコプターによる散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)						2.1	13.4	0.9	-	
2	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4.4. 登録番号23878：ゼータハンマーフロアブル（プロピリスルフロン1.7%・ペントキサゾン3.9%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23878
	種類・名称	プロピリスルフロン・ペントキサゾン水和剤（ゼータハンマーフロアブル）（除草剤）
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	3.9 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植後3日～ $\text{L}^{\text{b}}$ 葉期ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植後3日～ $\text{L}^{\text{b}}$ 葉期ただし、移植後30日まで/水口施用/2回	1	-	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植後3日～ $\text{L}^{\text{b}}$ 葉期ただし、移植後30日まで/無人航空機による滴下/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
4	直播水稻	500 mL, 0.5 L/10a/稲1葉期～ $\text{L}^{\text{b}}$ 葉期ただし、収穫90日前まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
5	直播水稻	500 mL, 0.5 L/10a/稲1葉期～ $\text{L}^{\text{b}}$ 葉期ただし、収穫90日前まで/無人航空機による滴下/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 5. 登録番号23879：ゼータハンマージャンボ（プロピリスルフロン4.5%・ペントキサゾン10.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23879
	種類・名称	プロピリスルフロン・ペントキサゾン粒剤(ゼータハンマージャンボ) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	10 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	小包装(パック)10個(200g)/10a/移植後3日～ヒエ3葉期ただし、移植後30日まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								
2	直播水稻	小包装(パック)10個(200g)/10a/稲1葉期～ヒエ3葉期ただし、収穫90日前まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4.6. 登録番号23995：SDSイザナギフロアブル、登録番号23996：イザナギフロアブル（トリアファモン0.94%・ベンゾピシクロン3.8%・ペントキサゾン5.7%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23995
	種類・名称	トリアファモン・ベンゾピシクロン・ペントキサゾン水和剤 (SDSイザナギフロアブル) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	5.7 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植直後〜ヒト3.5葉期 ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植直後〜ヒト3.5葉期 ただし、移植後30日まで/水口施用/2回	1	-	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
4	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植直後〜ヒト3.5葉期 ただし、移植後30日まで/無人航空機による滴下/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
5	直播水稻	500 mL, 0.5 L/10a/稲1.5葉期〜ヒト3.5葉期 ただし、収穫90日前まで/原液湛水散布/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
6	直播水稻	500 mL, 0.5 L/10a/稲1.5葉期〜ヒト3.5葉期 ただし、収穫90日前まで/無人航空機による滴下/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL (mg/kg体重/日) × 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL (mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

47. 登録番号24228：ゼータタイガー300FG、登録番号24229：ドラゴンホークZ300FG（プロピリスルフロンの3.0%・プロモブチド30.0%・ペントキサゾンの6.67%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24228
	種類・名称	プロピリスルフロンの・プロモブチド・ペントキサゾンの (ゼータタイガー300FG) (除草剤)
② 評価対象有効成分		ペントキサゾン
③-1 AOEL		0.23 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		6.67 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体/散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 (µg ai/kg 体重/日)	急性 (µg ai/kg 体重)	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	0.3 kg/10a/移植後3日~ヒレ3葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						2.1	13.4	0.9	-	
2	直播水稻	0.3 kg/10a/稲1葉期~ヒレ3葉期ただし、収穫90日前まで/湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						2.1	13.4	0.9	-	

1): AOEL占有率=反復暴露量(µg ai/kg体重/日)÷1000(µg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

2): AAOEL占有率=急性暴露量(µg ai/kg体重)÷1000(µg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 8. 登録番号24336：SDSイザナギ1キロ粒剤、登録番号24337：イザナギ1キロ粒剤（トリアファモン0.50%・ベンゾピシクロン2.0%・ペントキサゾン2.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24336
	種類・名称	トリアファモン・ベンゾピシクロン・ペントキサゾン粒剤(SDSイザナギ1キロ粒剤)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	2.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)		2)
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後〜 $\text{t}^{\text{e}}$ 3葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)						2.6	16.8	1.1	-	
3	直播水稻	1 kg/10a/稲1.5葉期〜 $\text{t}^{\text{e}}$ 3葉期ただし、収穫90日前まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)						2.6	16.8	1.1	-	

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL(mg/kg体重/日) × 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL(mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

49. 登録番号24378：トップガンRジャンボ（ピリミノバックメチル1.8%・プロモプチド36.0%・ベンスルフロメチル3.0%・ペントキサゾン8.0%剤）

① 製剤情報	登録番号	24378
	種類・名称	ピリミノバックメチル・プロモプチド・ベンスルフロメチル・ペントキサゾン剤（トップガンRジャンボ）（除草剤）
② 評価対象有効成分		ペントキサゾン
③-1 AOEL		0.23 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		8 %
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）		製剤: 固体 / 散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		-

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	小包装(パック)10個(250g)/10a / 移植直後～ビエ2.5葉期但し、移植後30日まで / 水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。 / 2回	1	—	本剤は水溶性バック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								
2	直播水稻	小包装(パック)10個(250g)/10a / 稲1葉期～ビエ2.5葉期但し、収穫90日前まで / 水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。 / 2回	1	—	本剤は水溶性バック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$  体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg 体重/日)  $\times$  100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$  体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg 体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

50. 登録番号24469：ゼータジャガーフロアブル（フェンキノトリオン5.7%・プロピリスルフロン1.7%・ペントキサゾン3.8%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24469
	種類・名称	フェンキノトリオン・プロピリスルフロン・ペントキサゾン水和剤（ゼータジャガーフロアブル）（除草剤）
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	3.8 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植後3日～ $\text{H}^{\circ}$ 4葉期ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣		
2	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植後3日～ $\text{H}^{\circ}$ 4葉期ただし、移植後30日まで/無人航空機による滴下/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣		
3	直播水稻	500 mL, 0.5 L/10a/稲1葉期～ $\text{H}^{\circ}$ 4葉期ただし、収穫90日前まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣		
4	直播水稻	500 mL, 0.5 L/10a/稲1葉期～ $\text{H}^{\circ}$ 4葉期ただし、収穫90日前まで/無人航空機による滴下/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣		

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5 1. 登録番号24470：ゼータジャガー1キロ粒剤（フェンキノトリオン3.0%・プロピリスルフロロン0.90%・ペントキサゾン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24470
	種類・名称	フェンキノトリオン・プロピリスルフロロン・ペントキサゾン粒剤(ゼータジャガー1キロ粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	2 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり							備考		
					調製時		散布時			反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。							散布時: 農薬用マスク、ゴム長靴、不浸透性防除衣		
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後〜ヒレ4葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤)_水稻(手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	0.2	1.4	0.1	-	散布時: ゴム長靴
3	直播水稻	1 kg/10a/稲1葉期〜ヒレ4葉期ただし、収穫90日前まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤)_水稻(手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	0.2	1.4	0.1	-	散布時: ゴム長靴

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5 2. 登録番号24471：ゼータジャガージャンボ（フェンキノトリオン15.0%・プロピリスルフロン4.5%・ペントキサゾン10.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24471
	種類・名称	フェンキノトリオン・プロピリスルフロン・ペントキサゾン粒剤(ゼータジャガージャンボ) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	10 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	小包装(パック)10個(200g)/10a/移植後3日～ノビエ4葉期ただし、移植後30日まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								
2	直播水稻	小包装(パック)10個(200g)/10a/稲1葉期～ノビエ4葉期ただし、収穫90日前まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5.3. 登録番号24477：流星フロアブル（フェンキノトリオン6.0%・ペントキサゾン5.0%・メタゾスルフロン2.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24477
	種類・名称	フェンキノトリオン・ペントキサゾン・メタゾスルフロン水和剤(流星フロアブル)(除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	500 mL, 0.5 L/10a/移植後3日～ $\text{L}^{\text{b}}$ 葉期 ただし、移植後30日まで/原液湛水散布又は無人航空機による滴下/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	直播水稻	500 mL, 0.5 L/10a/稲1葉期～ $\text{L}^{\text{b}}$ 葉期 ただし、収穫90日前まで/原液湛水散布又は無人航空機による滴下/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

<sup>1)</sup>: AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5.4. 登録番号24478：流星1キロ粒剤（フェンキノトリオン3.0%・ペントキサゾン2.5%・メタゾスルフロン1.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24478
	種類・名称	フェンキノトリオン・ペントキサゾン・メタゾスルフロン粒剤(流星1キロ粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	2.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)				
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。										
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後～ヒト3葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)							2.6	16.8	1.1	-	
3	直播水稻	1 kg/10a/稲1葉期～ヒト3葉期ただし、収穫90日前まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)							2.6	16.8	1.1	-	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL (mg/kg体重/日) × 100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL (mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5 5. 登録番号24479：流星ジャンボ（フェンキノトリオン7.5%・ペントキサゾン6.25%・メタゾスルフロン2.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24479
	種類・名称	フェンキノトリオン・ペントキサゾン・メタゾスルフロン粒剤(流星ジャンボ) (除草剤)
② 評価対象有効成分		ペントキサゾン
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	6.25 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	小包装(パック)10個(400g)/10a/移植後3日～ルビエ3葉期 ただし、移植後30日まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								
2	直播水稻	小包装(パック)10個(400g)/10a/稲1葉期～ルビエ3葉期 ただし、収穫90日前まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5 6. 登録番号24480：流星エアー粒剤（フェンキノトリオン7.5%・ペントキサゾン6.25%・メタゾスルフロン2.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24480
	種類・名称	フェンキノトリオン・ペントキサゾン・メタゾスルフロン粒剤(流星エアー粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	6.25 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	0.4 kg/10a/移植後3日~1ヵ月3葉期 ただし、移植後30日まで/ 湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水 稲(手散布)						2.6	16.8	1.1	-	調製時・散布時:保護 眼鏡
2	直播水稻	0.4 kg/10a/稲1葉期~1ヵ月3葉期 ただし、収穫90日前まで/ 湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水 稲(手散布)						2.6	16.8	1.1	-	調製時・散布時:保護 眼鏡

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5.7. 登録番号24610：SDSイザナギジャンボSD、登録番号24611：イザナギジャンボSD（トリアファモン2.5%・ベンゾピシクロン10.0%・ペントキサゾン15.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24610
	種類・名称	トリアファモン・ベンゾピシクロン・ペントキサゾン粒剤(SDSイザナギジャンボSD) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	15 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	-	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	-
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	小包装(パック)10個(200g)/10a/移植直後〜ヒエ3.5葉期ただし、移植後30日まで/水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。/2回	1	-	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

58. 登録番号24612：SDSイザナギ200SD粒剤、登録番号24613：イザナギ200SD粒剤（トリアファモン2.5%・ベンゾピシクロン10.0%・ペントキサゾン15.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24612
	種類・名称	トリアファモン・ベンゾピシクロン・ペントキサゾン粒剤(SDSイザナギ200SD粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	15 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)			
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	
1	移植水稻	0.2 kg/10a/移植直後～収穫3.5葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)							3.1	20.1	1.3	-	

1): AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL (mg/kg体重/日) × 100

2): AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL (mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

59. 登録番号24630：イネヒーローエア－粒剤（ダイムロン25.0%・ペントキサゾン7.5%・メタゾスルフロン2.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24630
	種類・名称	ダイムロン・ペントキサゾン・メタゾスルフロン粒剤 (イネヒーローエア－粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	7.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)			
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	
1	移植水稻	0.4 kg/10a/移植直後～ $\text{L}_3$ 葉期 但し、移植後30日まで/ 湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水 稲(手散布)							3.1	20.1	1.3	-	

1): AOEL占有率=反復暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000( $\mu\text{g/mg}$ ) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

60. 登録番号：イネブレイブ1キロ粒剤（ジメタメトリン0.6%・ペントキサゾン3.0%・メタゾスルフロン0.8%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	-
	種類・名称	ジメタメトリン・ペントキサゾン・メタゾスルフロン粒剤(イネブレイブ1キロ粒剤) (除草剤)
② 評価対象有効成分	ペントキサゾン	
③-1 AOEL	0.23 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	設定不要	
④ 有効成分濃度・含有率	3 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦ 作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重)	1)		2)
1	移植水稻	1 kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/2回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣	
2	移植水稻	1 kg/10a/移植直後〜収穫期 但し、移植後30日まで/灌水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤) 水稻(手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	0.3	2.1	0.1	-	

<sup>1)</sup>: AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AOEL (mg/kg体重/日) × 100

<sup>2)</sup>: AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{g ai/kg}$ 体重) ÷ 1000 ( $\mu\text{g/mg}$ ) ÷ AAOEL (mg/kg体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。